



始



ちよじや



東亞に遍き
配給網

創立慶應三年

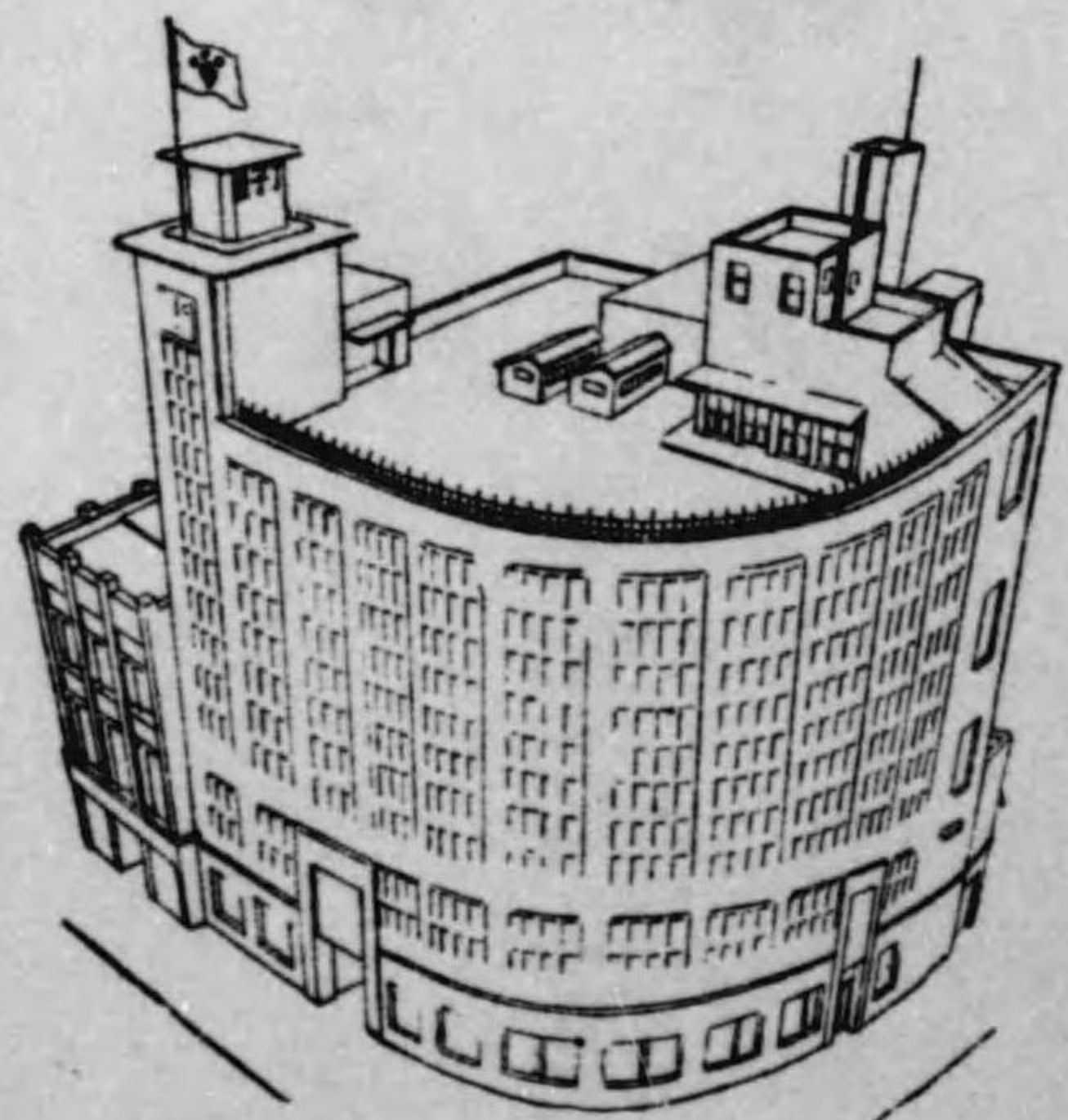
株式會社
丁子屋

本店 京城府南大門通
支店 津市大門町
出張所 大阪・京都・名古屋・四日市
支店 釜山府辨天町
支店 新宮市横町
支店 大阪市東區瓦町四丁目
仕入店 平壤府本町二
連鎖店 元山府本町通り
同 大連連鎖街銀座
同 奉天春日町



株式會社
滿洲丁子屋

本店 新京市老松町四
支店 奉天市大和區東亞街三段
出張所 哈爾濱埠頭區斜波五段街



御料理館

津驛前

遠帆橋

松阪屋

電話六一八番

折詰 幕之内 弁當 料和洋 理洋物 貨

松阪屋 津物産館

電話七一二番

直營 階上會議 宴會場 食堂部

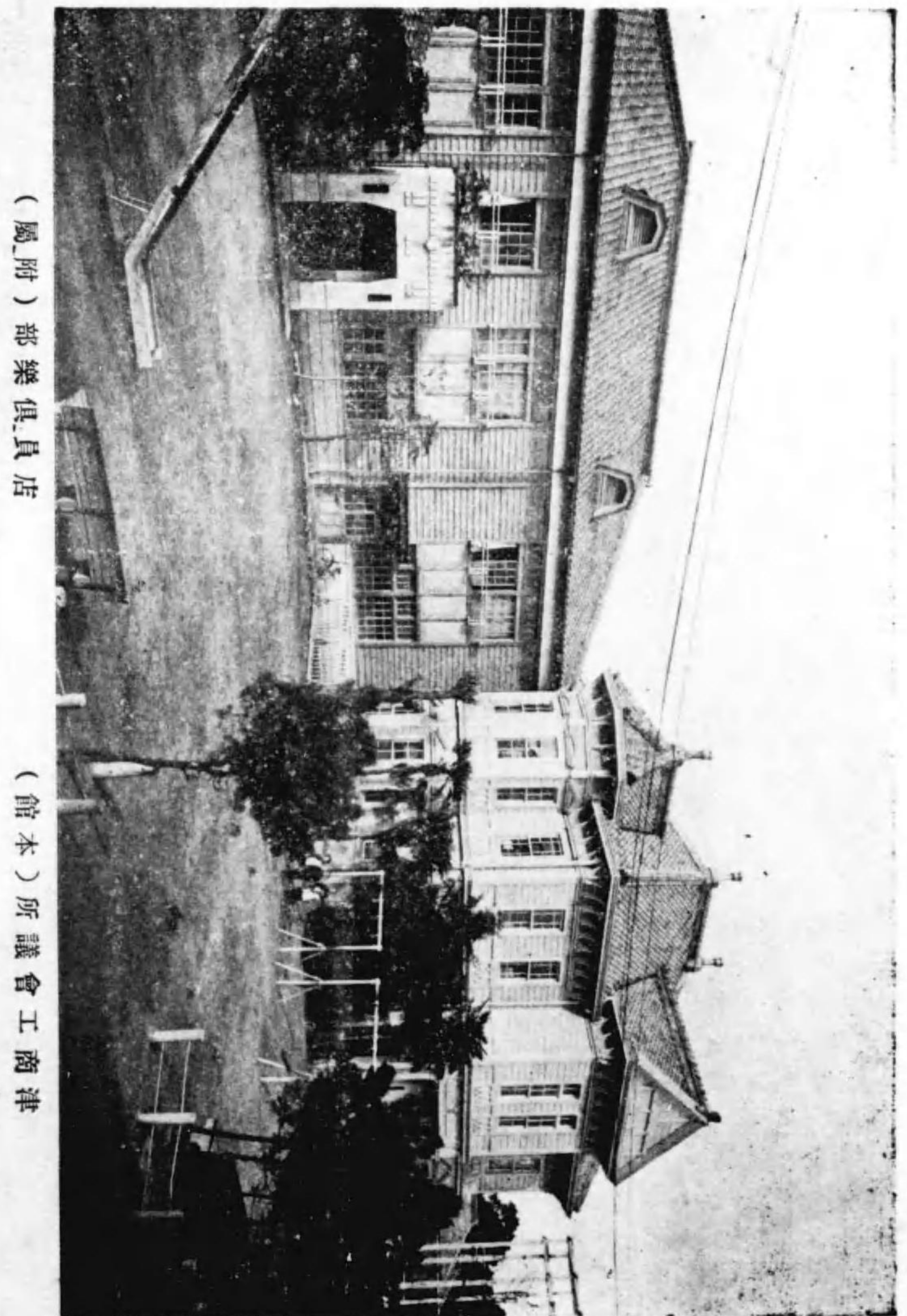
特 230
519



津市商工紀要

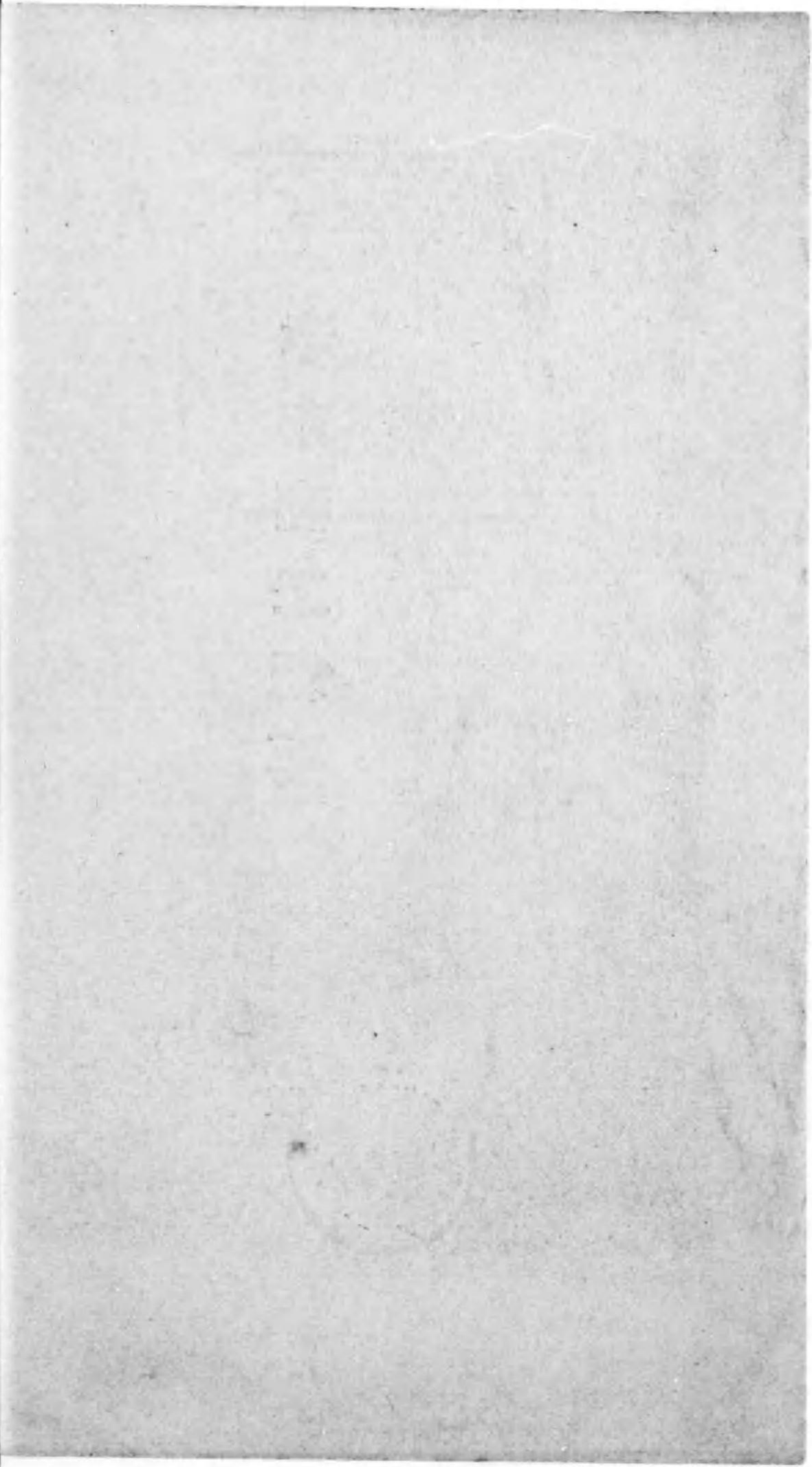
昭和十五年版

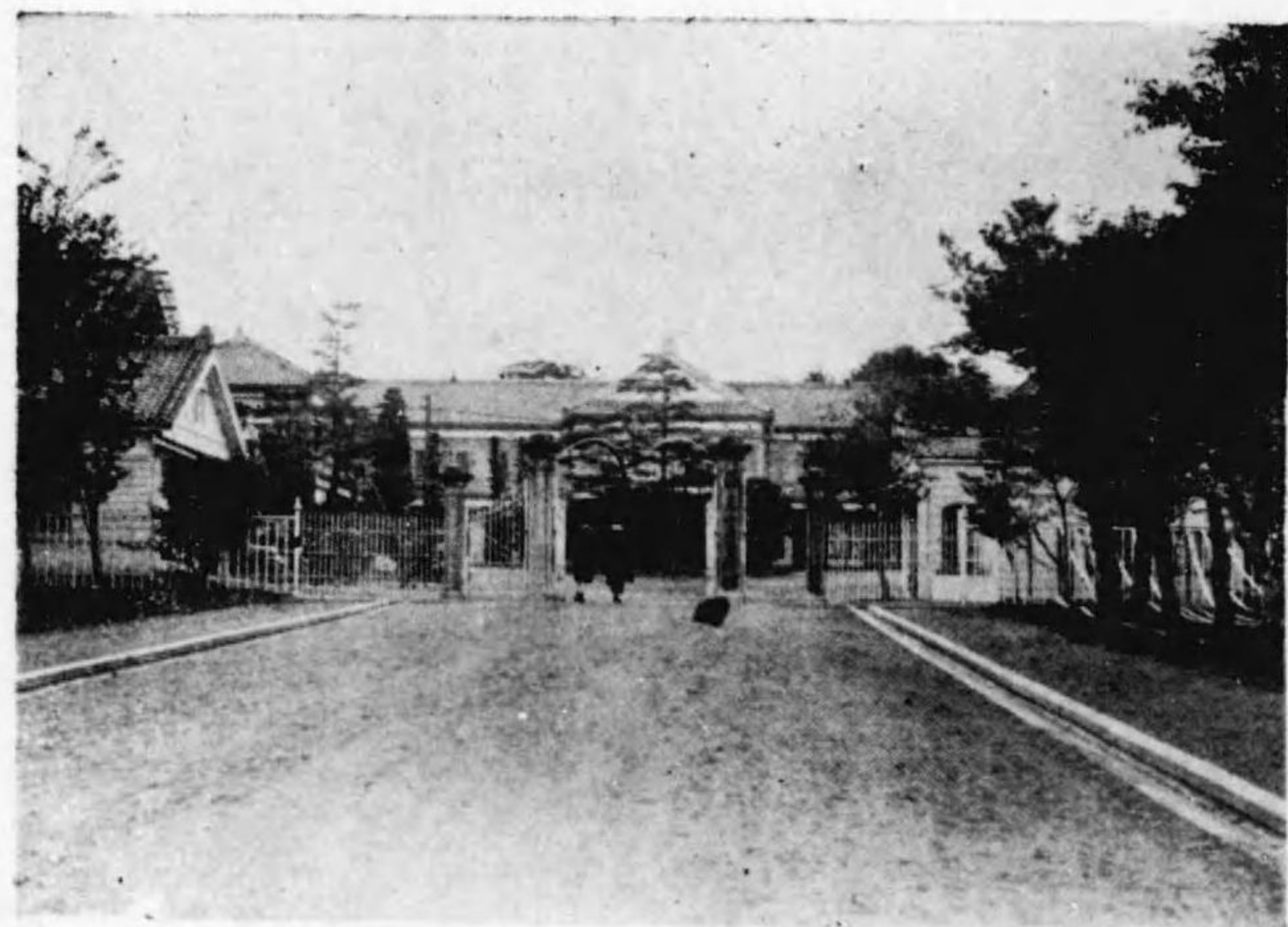




(厦 附) 游 樂 俱 員 店

(館 本) 所 議 會 工 商 津

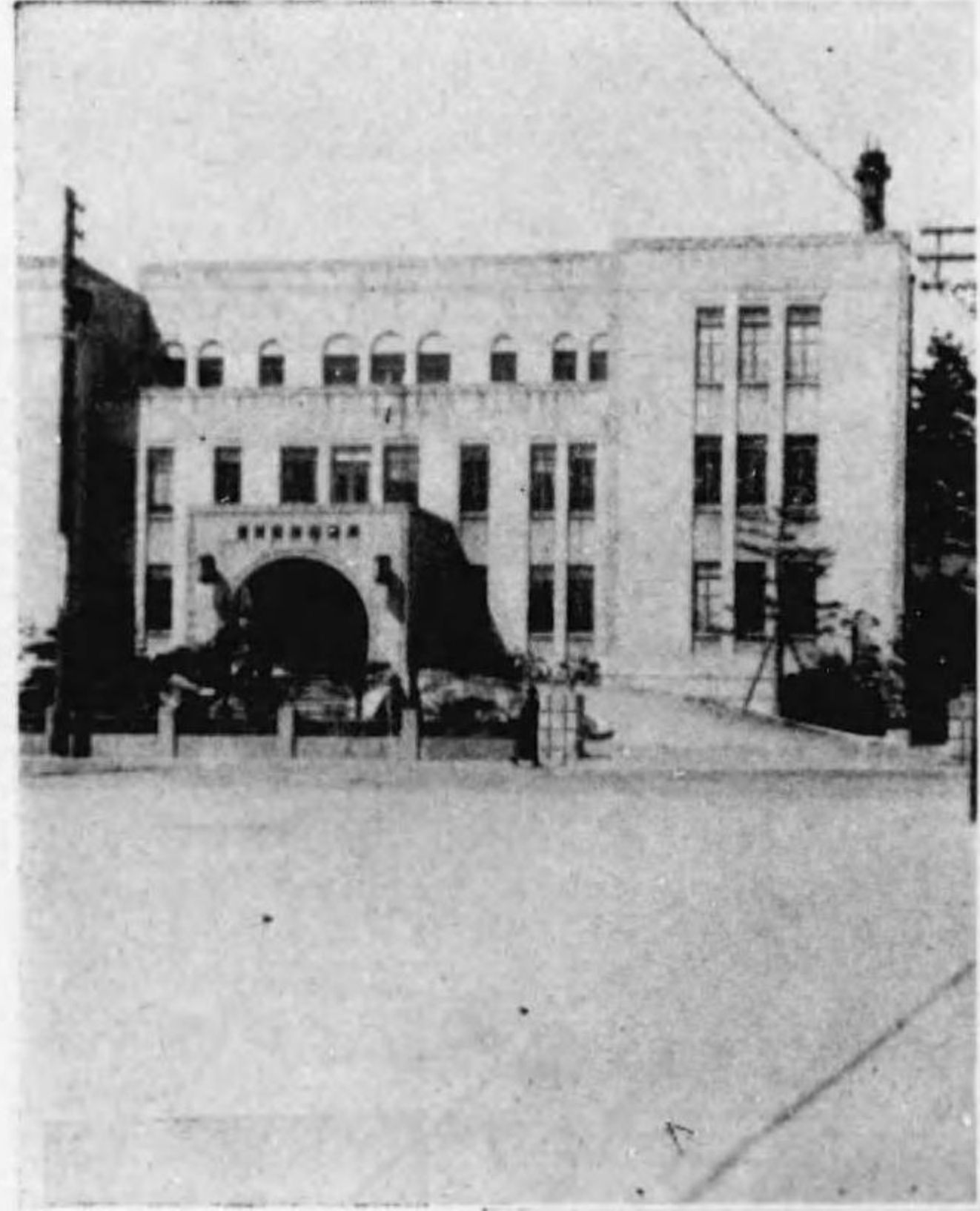




三 重 縣 廳



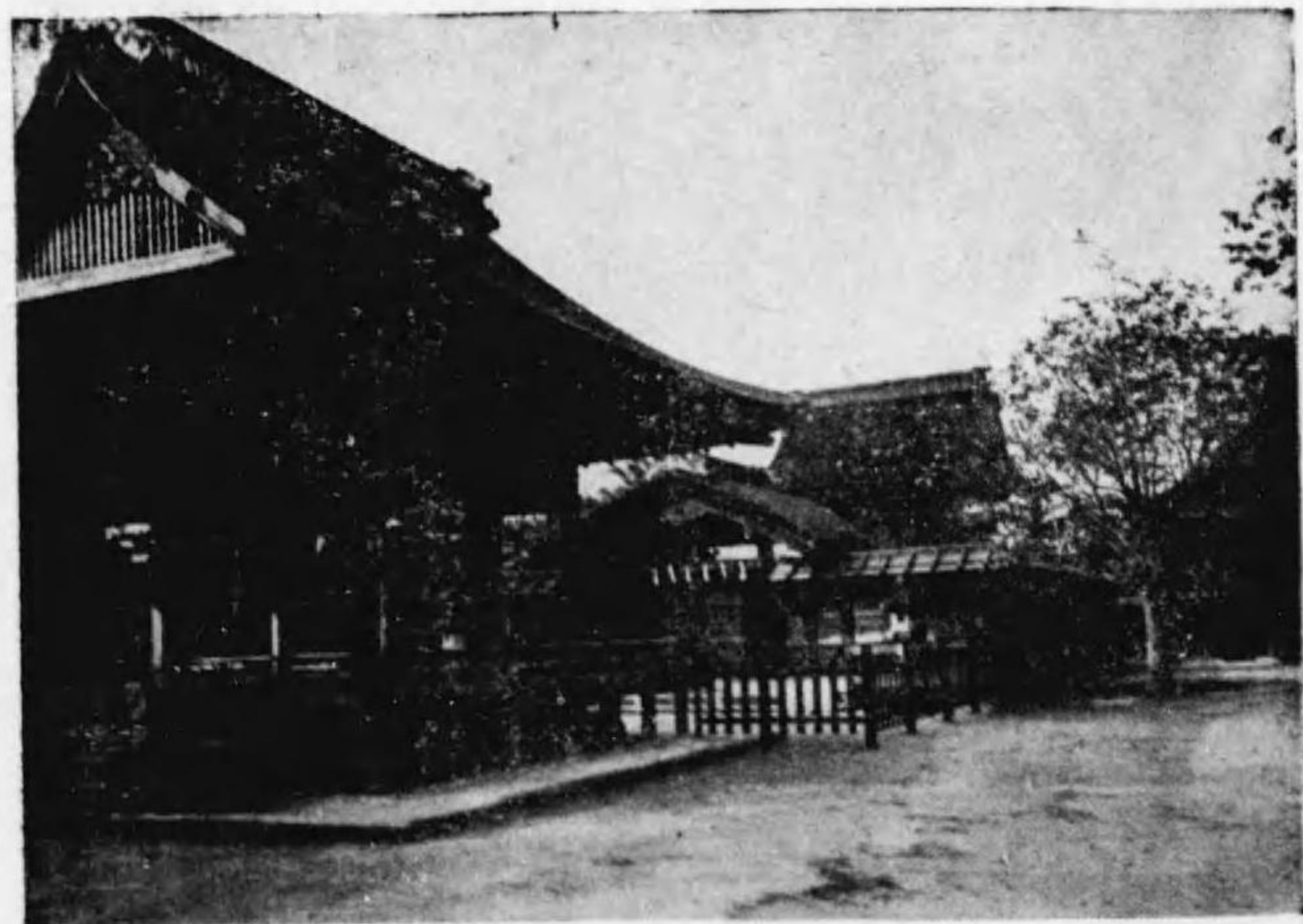
津 市 役 所



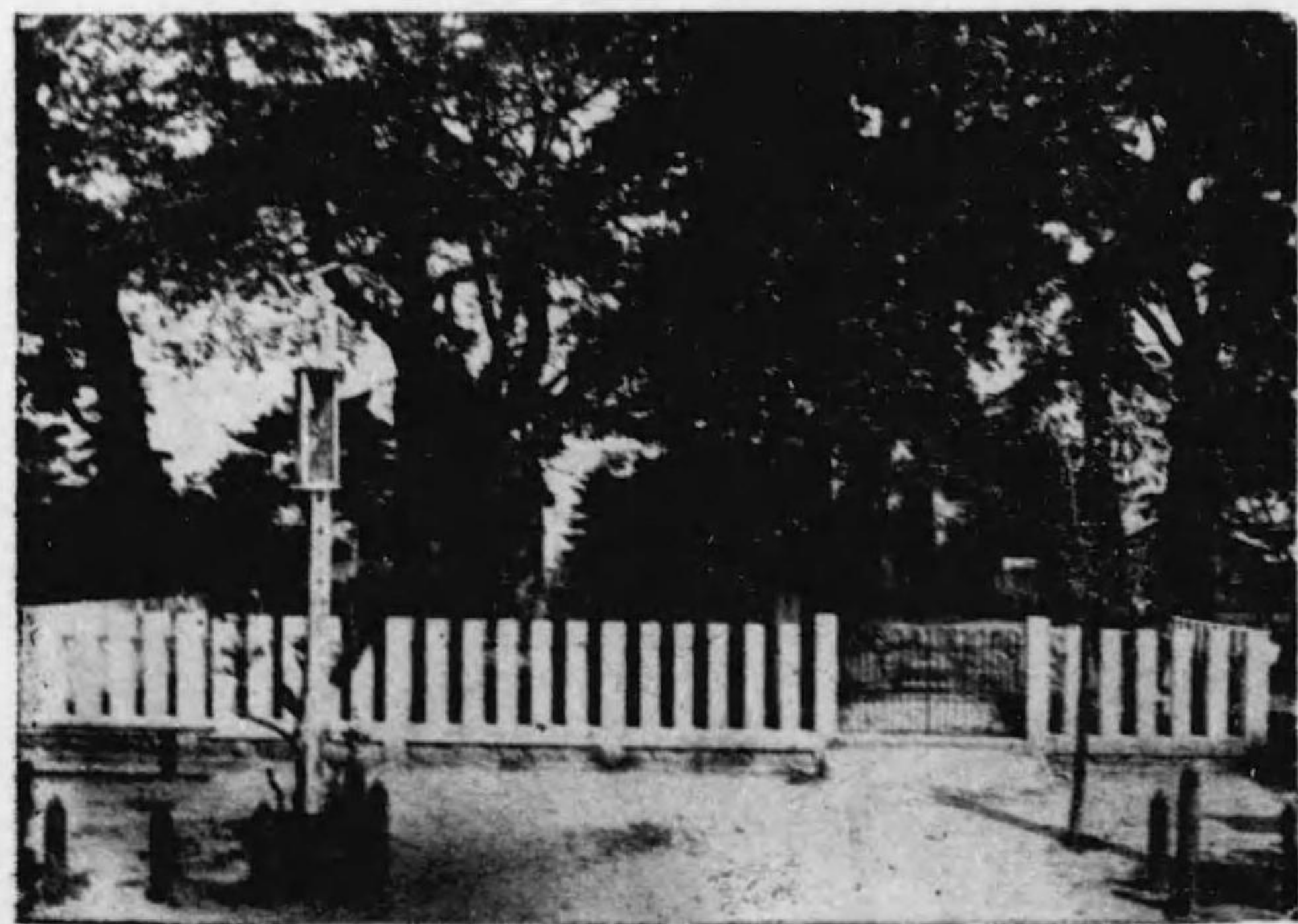
← 縣會議事堂



→ 百五銀行前通り



別格官幣社結城神社



阿漕塚



津市借樂公園



津城址





(物造建護保別特) 寺 音 観

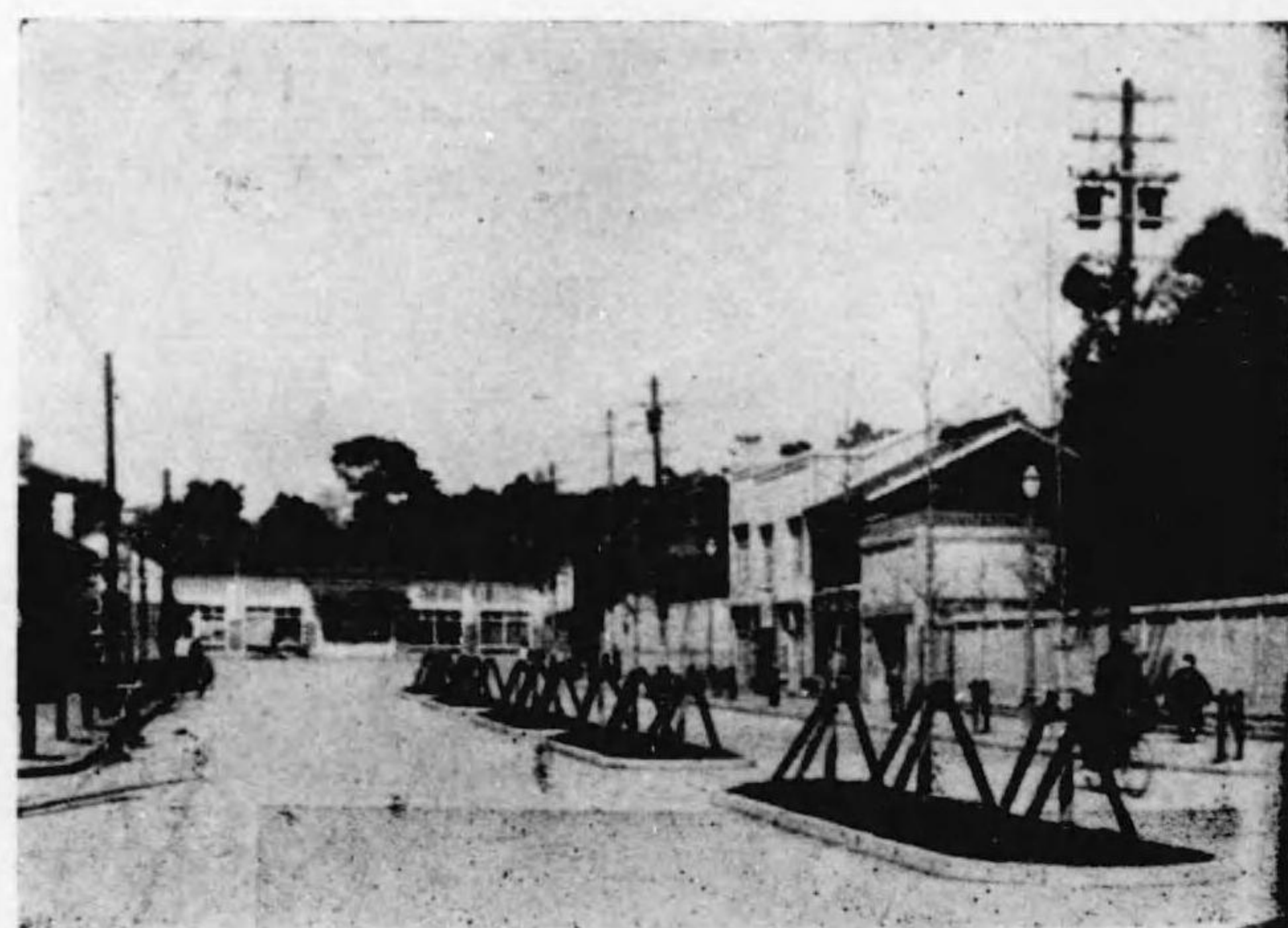


(物造建護保別特) 堂 陀 彌 阿





津市萬町通



津驛前通





（樂漁の一唯夏初春晚）遊漁干楯



浴 水 海

は し が き

今の「津市」を世に紹介せんが爲め本書を編纂した。其の過去の「津」を記述せるは其の沿革の因つて來る所を明にせんが爲めである。

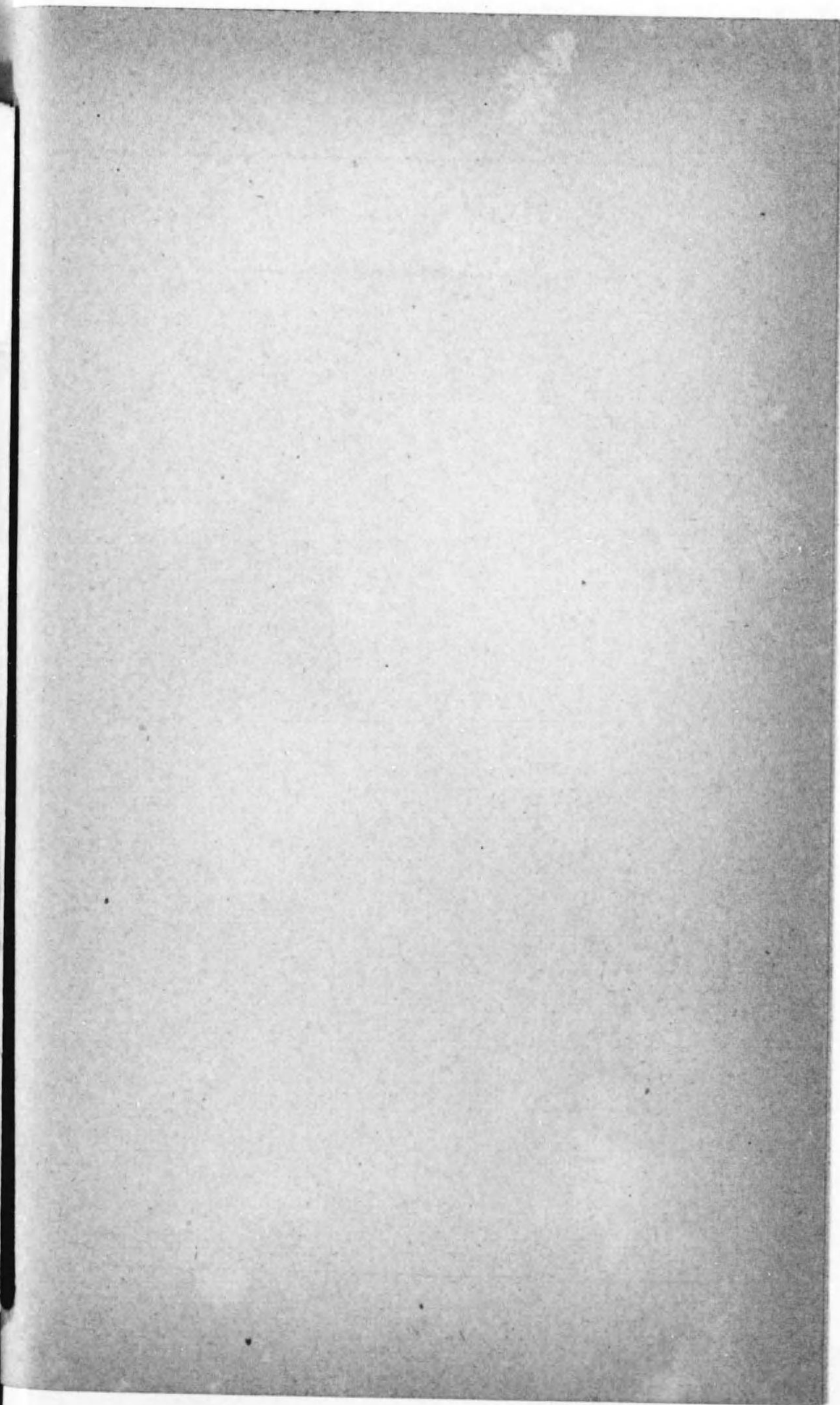
商工人名録に載録せるは主として昭和十四年十二月現在に於ける當會議所議員選舉權者、法人（營業收益稅額拾五圓以上）で、其他は參考として法人、工場、組合團體、官公署、學校、公職者等をも附載した。

商工人名録中の營業種目は努めて明確を期し、索引に便なるやう分類したのであるが、中には稱呼又は品類の如何によりて截然區別し難きものも少なからず、是等は比較的檢出し易き通俗的稱呼又は品名に従ふて分類し、又一人にして營業種目の數種に亘るものは各其部類中に收め彼此重出して其兼業を明かにし、營業收益稅額（法人を除く）は左の符號に依り登載した。

貳拾五圓以下 **ア**、五拾圓以下 **イ**、百圓以下 **ウ**、參百圓以下 **エ**、
五百圓以下 **オ**、八百圓以下 **カ**、千圓以下 **キ**、千圓以上 **ク**、

津市工商業紀要目次

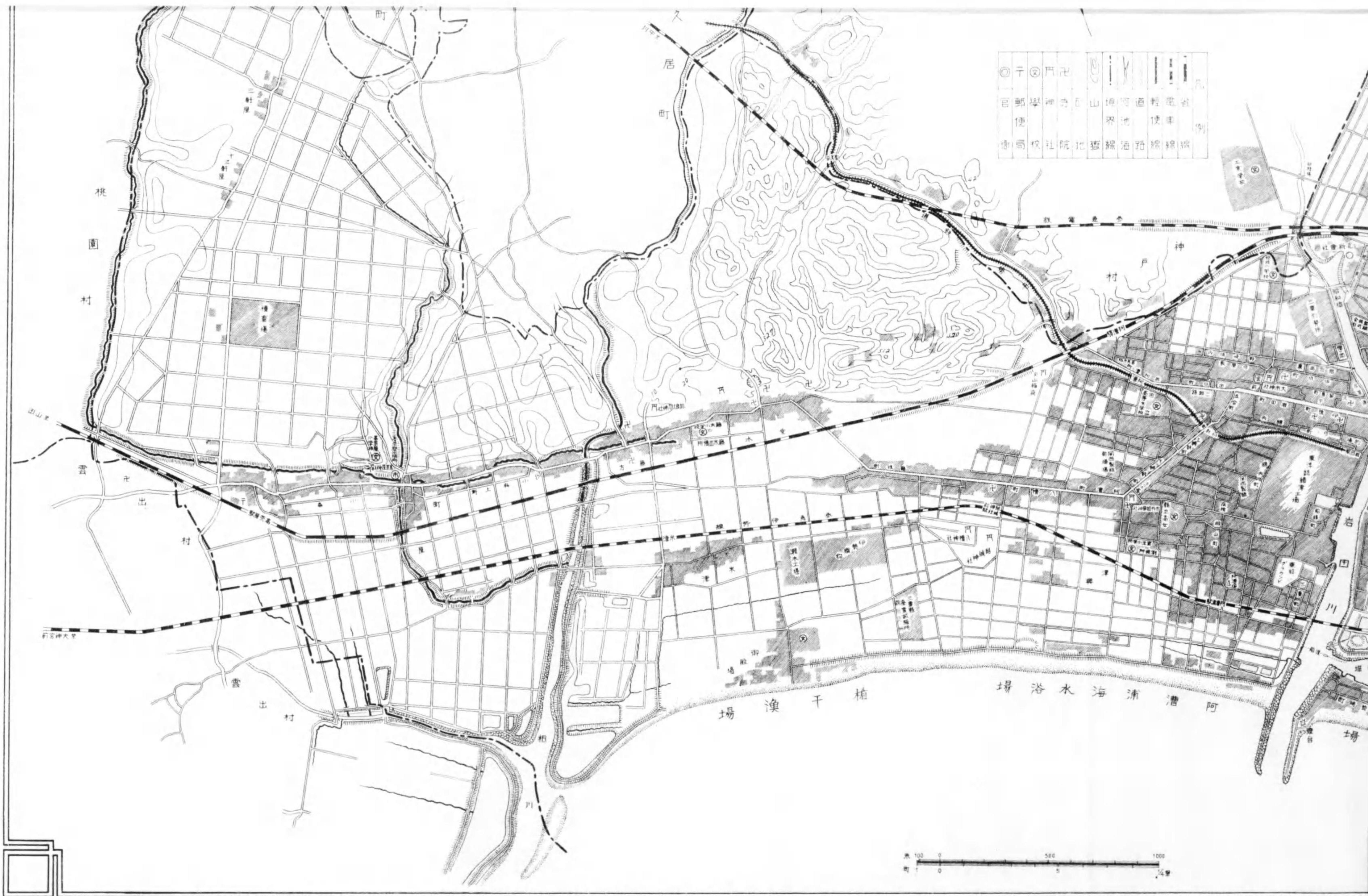
| | | | |
|-------------------|--|-----------------|-----|
| 〔一〕 津市大観……………一 | | 〔四〕 交通運輸……………二 | |
| (い) 位置と地勢……………一 | | (い) 鐵道……………二 | |
| (ろ) 市の戸口と財政……………二 | | (ろ) 陸路と海路……………二 | |
| 〔二〕 商業……………二 | | (は) 遞信……………三 | |
| (い) 概説……………二 | | 〔五〕 沿革……………三 | |
| (ろ) 金融機關……………三 | | (い) 津の沿革……………三 | |
| (は) 市場……………四 | | (ろ) 商業の沿革……………五 | |
| (に) 商工業機關……………五 | | (は) 工業の沿革……………六 | |
| 〔三〕 工業……………六 | | 〔六〕 古名匠……………一九 | |
| (い) 概説……………六 | | 〔七〕 神社佛閣……………二〇 | |
| (ろ) 主要物産……………六 | | 〔八〕 勝地……………三 | |
| (は) 工業機關……………一〇 | | | (終) |



津市全圖



| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | 干 | ② | 門 | 記 | 山 | 地 | 河 | 道 | 程 | 電 | 省 | 例 |
| ◎ | 官 | 郵 | 學 | 神 | 寺 | 山 | 地 | 河 | 道 | 程 | 電 | 省 |
| ◎ | 便 | 校 | 院 | 北 | 嶽 | 線 | 活 | 路 | 線 | 線 | 線 | 例 |
| ◎ | 局 | 校 | 院 | 北 | 嶽 | 線 | 活 | 路 | 線 | 線 | 線 | 例 |



0 500 1000
 米 町

津市商工紀要

〔一〕津市大觀

(い) 位置と地勢

三重縣四州の地、北に桑名市、四日市市あり、南に松阪市、宇治山田市あり、而して津市は此間に在りて地位を伊勢の中央に占め、四州交通の要衝に當れる一縣の中樞地である、東は洋々たる伊勢灣を控へて水天鬚髭の間遙に尾參の青巒を望み、西は安濃郡の沃野を距て、伊賀の翠岱と相對し、岩田、安濃の二川市内を貫流し、志登茂川市の北端を流れ、岩田川の海に朝する處に津港ありて海路大阪、名古屋を聯絡して居る。

參宮急行電鐵は市の西部を走驅し一志郡久居町を経て中川驛に到り、西は大阪、伊賀方面、南は宇治山田市と聯絡す、市の東部を貫通する同電鐵伊勢線あり、前の伊勢電氣鐵道にして、江戸橋驛にて參急線に聯絡せられる、更に參宮急行電鐵株式會社の姉妹會社として關西急行電鐵株式會社に依り名古屋市に到る。

南には中勢鐵道ありて市の南部と久居町及び一志郡川口との間を聯絡し、西に安濃鐵道あり、市内には縱横にバスの網完成し又は一志郡奥津、安濃郡長野へのバスありて市郡の交通を便にし、市の西端には省線參宮線ありて市の南北を貫通して居る。

郊外には沃野相連り海には魚介の利あり、氣候中和にして嚴冬と雖も積雪を見ること罕である、若夫れ瀨海一帯砂白く松翠に、風光の佳勝と漁遊の快興に至つては蓋し多くあらざる天惠の勝區で、海濱一帯は遠淺にして波穩かに最も安全なる海水浴場として斯道識者の夙に推奨する所である。

市の廣袤は東西九、六六二米、南北一〇、八三〇米、東西に短く南北に長く、面積二〇、三五六、〇〇〇平方米、周

園三一、〇〇四米、都市計畫事業も昭和八年度に一部着工し昭和十四年度を以て第一期工事を完了し、昭和八年十月安濃郡新町を、昭和十一年三月安濃郡藤水村を、昭和十四年七月一志郡高茶屋村を本市に併合したり、尙其他隣接町村の併合により地域は一躍膨大して現在の四倍以上となる筈である。

(ろ) 市の戸口と財政

戸口は逐年滋蕃し市勢は駁々として膨脹を示して居る、昭和十四年三月の現在戸口は戸數一萬四千二百三十六戸人口男三二、二七八人、女三五、五八九人、合計六七、八六七人である。

市勢の膨脹に伴ひ財政も逐年膨脹を來し、上、下水道は今や完成したり、市は此二大事業の爲め財政は異常な膨脹を來し昭和十四年度の豫算高は歳入金八拾四萬八千二百七拾圓、歳出經常部金五拾七萬四千拾壹圓、臨時部金貳拾七萬四千二百五十九圓である。

(二) 商業

(い) 概説

北勢に桑名市、四日市あり、南勢は松阪市、宇治山田市あり、津市は中勢に在つて地理的及政治的關係により、古來大体消費地として發達し來つた關係で、小賣營業者の多きは自然である、その商取引關係の最も多きは名古屋、大阪、東京、京都等之に亟ぎ、海陸交通の便に依つて物資の集散が行はれて居る、又近郡産出の米穀、蠶繭、南勢、志摩、紀伊沿海に産する魚類を吞吐して市場を賑はし、商取引の範圍は逐年逸展を示すは蓋必然の趨勢であると謂はねばならぬ、昭和十四年末現在の商業戸數は三千七百六十七戸で就中吳服太物、洋品雜貨、米

穀、肥料等は各種營業中の重なるものである。

(ろ) 金融機關

【銀行】津市の金融機關として百五銀行、三重共同貯蓄銀行、日本勸行銀行津支店、愛知銀行津支店、勢南銀行津支店、日本貯蓄銀行津支店、不動貯金銀行津支店の外に共融無盡株式會社及津信用組合がある、何れも時運の進展に伴ひ資本の増加と共に内容の充實と基礎の確實に努力し業務の發展を示しつゝあり。

【株式會社百五銀行】市内銀行中其創立最も古く、明治十一年十二月國立銀行として創立し、同三十年七月組織を改めて株式會社と爲し資本金五拾萬圓となりしが其後累次増資して壹千萬圓となり、縣下樞要の地並に名古屋市に支店を置く。

【株式會社日本勸業銀行津支店】本店は東京市に在り、昭和十二年五月三重縣農工銀行と併合したるものにして同時に津支店を設置し、縣下樞要の地に出張所を置く。

【株式會社愛知銀行津支店】本店は名古屋市に在り、資本金千五百萬圓にして津支店は明治三十二年九月の設置である。

【株式會社勢南銀行津支店】本店は宇治山田市に在り、資本金貳百萬圓にして昭和三年三月津支店を設置した。

【株式會社三重共同貯蓄銀行】大正十年十月の創立で資本金は五拾萬圓、市内大門町に本店を縣下樞要の地に代理店を置く。

【株式會社日本貯蓄銀行津支店】本店は名古屋市に在り、資本金は貳百參拾萬圓にして津支店は明治三十二年十月の設置である。

【株式會社不動貯金銀行津支店】本店は東京市に在り、資本金八百萬圓にして津支店は明治四十二年二月の設置である。

【共融無盡株式會社】大正五年六月の創立、現在資本金拾萬圓である、中流以下の金融機關として無盡業法に依

りて營業し、宇治山田市に支店を置く。尙此の以外に紀勢無盡、三重無盡の兩社の支店がある。

【有限責任津信用組合】 大正十二年三月主として中小商工業者の金融機關として産業組合法に依りて設立せられたるもので、昭和十四年末現在の組合員は二千二百三十人、此出資金金參拾壹萬八千六百九拾圓である。

【日本業證券株式會社津出張所】 本店は東京市に在り、資本金參百萬圓にして津出張所は昭和十二年七月の設置なり、小額債券の賣買貸付は同社の專業である。

【公益質屋】 市内丸の内葛町に在り昭和五年四月公益質屋法により市之を經營す融通金額は約拾參萬圓である。

【質屋】 市内質屋業は十戸で其融通金額は年柄に依りて増減するも大休年額參萬圓内外である。

（は） 市 場

【魚市場】 魚市場は市内魚町に在り、各種營業者中最も古き歴史を有するものゝ一である、其組織は古來の習慣に依り問屋、仲買、小座の三者より成り、問屋の荷主より收むる口錢は四種に分れ種類に依りて其割合を異にし仲買の口錢は一定し、問屋が荷主に對し計算仕切の際便宜上問屋口錢と共に一時受入れ置くことゝなつて居る、市場の取引は魚類及其他の海産物を主とし鳥獸肉其他食料品で、市場は株式會社津魚市場の經營する所である、同會社は大正元年十二月の創立にして資本金貳拾五萬圓を以て營業す、當市場に集散する魚類は主として縣下度會、志摩の兩郡及紀伊沿海地方其他は尾參駿遠地方及北海道、下關、敦賀等より來るもの多く又當市場を経て伊賀、大和、近江地方に移出せらる、其取扱金額は最近年額八拾五萬餘圓で、其開市の際の如きは一種の騾聲喧々囂々として殆ど其何たるを辨せず、市場には巨口細鱗雜然として堆く眞に是れ市塵中の一奇觀である。

【青物乾物市場】 青物乾物市場は市内入江町及片濱町に在り、前者は株式會社津青物商會で大正四年六月の創立資本金五萬圓である、後者は天春源太郎氏の經營する所で、兩市場の最近賣上高は金四拾貳萬圓である市場組織は魚市場と大同小異にして其口錢は青物と乾物と其歩合を異にし、問屋と仲買との計算に關する慣習は魚市場と同様である、市場に集る品貨は尾張、三河、紀伊、大阪、京都、大和、北海道、青森地方並に近郡の生産品である。

（に） 商 工 業 機 關

【津商工會議所】 明治十四年の頃市内有力者の發起にて商法會所を設けた是が今の津商工會議所の前身であるが設立未だ數年ならずして解散した、其後明治二十三年九月商業會議所條例の發布せらるゝに及び、前會頭川喜田四郎兵衛氏等二十九名の發起となり、時の農商務大臣の認可を得て同二十六年五月十三日始めて今の商工會議所の設立を見るに至つたのである、其後同三十五年五月商業會議所法の發布せらるゝや翌三十六年一月同法に依り組織を改めて繼續認可を得て津市商工業の重要機關となつた、現會頭は田中林助氏、副會頭は後藤仁兵衛氏である、初め議員數は二十名であつたが、昭和四年三月増員して三十一名となり、昭和八年十月安濃郡新町の併合に依り再び増員して三十五名となつた、外に顧問は現在五名である。

【津市商工會】 明治四十一年二月津商工同盟會を創立して昭和十一年十一月縣令商工會規則に依り津市商工會に改組し事務所を津商工會議所に設け、現在會員數は四十八組合千餘名を有し、市内の重なる商工業者を網羅して居る。

【商工業組合】 津市に於ける商工業機關としては前記の外輸出工業組合法に依り伊勢輸出タオル工業組合、三重縣輸出人絹織物工業組合、工業組合法に依る二十四組合商業組合法に依る四十一組合、重要物産同業組合法に依るもの五組合、其他産業組合法に依る津信用組合、三省信用組合及津購買組合、酒造組合法に依る中勢酒造組合及三重縣酒造組合聯合會、蠶業組合法に依る三重縣蠶業組合聯合會等又申合に依る六十餘の組合がある。

【津製造品輸出組合】 市内輸出品製造業者の組織に係るもので昭和十年一月の創立で組合員の製産品直輸出するものである、最近の取引先はポーランド、ブラジル其他で事務所は津商工會議所内にある。

【三重縣銀行集會所】 市内觀音境内に在り、縣内同盟銀行會が大正十一年七月設立の財團法人である。

【津手形交換所】 三重縣銀行集會所内に在り、大正十二年四月一日より交換事務を開始し昭和六年六月四日商法に依り司法大臣より指定せらる。

【勸精商業學校】 私立勸精館は明治十五年の創立にして其後大正九年三月組織を變更し三重縣勸精中學校に改め更に昭和十年三月津市に移管し、同時に津市立勸精商業學校を創設したのである。

〔三〕工業

(い) 概説

藩政時代に於て比較的商業方面に發達した津市の工業としては多くは家内の手工業に屬し、美術工藝品の觀賞するに足るもの或は名産として其名を世に知られたるもの少なからざりしが、名工の衣鉢傳ふる所其什一に過ぎないのは甚だ遺憾とする所である。現に存するは美術工藝品として籠製品、土産品として茄子形團扇、阿漕燒陶器津縵子の數種に止まり、古來傳承の工業として發達し來れるは伊勢木綿及醬油清酒などである、現今に於て産額の最も多きは綿布(紡績織布、伊勢木綿、タオル)、綿糸にして最近の年産額三千三百三十八萬餘圓に達し市内工産品の白眉である。生絲の製造亦盛にして年額百七十四萬餘圓を産す。其他清酒、醬油、漁網等亦當市の主要工産品で年々發達の續を示し工業戸數は二千八百餘戸である、要するに年柄に依りて盛衰消長あるは免れ難い所であるが漸進歩調を辿り來り基礎の堅實に培ひつゝあるは市工業の前途の爲に欣ばねばならぬ。

(ろ) 主要物産

【伊勢木綿】 伊勢木綿は古來伊勢綿の名を以て世に知られ、地質の堅牢と染色の不褪を特色とし専ら實用向を主

眼したるものであるが、同業組合は時勢の推移と嗜好の變遷とに鑑み製品の修整、染織意匠の改善向上を講じ指導獎勵の結果改良の績歳を逐ふて現はれ實質外觀共に見るべきものありて次第に聲價を加ふるに至り、販路は東京、大阪、京都、近江、北海道、北越、奥羽、九州方面に及び、臺灣、朝鮮、滿洲に伸展して居る津市の主要物産の一である。最近一ヶ年の産額は七百五拾五萬八千圓。

【紡績綿布】 東洋紡績株式會社津工場の製織する所にして原糸は同工場にて製産するものを使用す、工場は市内船頭町に在り、明治三十一年十月の設立にて織布事業を開始したるは同三十七年である。爾來逐年事業の擴張工場を増築を行ひ宏壯なる大工場と成り、最近年額千二百貳拾七萬八千圓、其規模の大にして産額の多きは縣下工業界の巨擘である。

【紡績綿糸】 岸和田紡績株式會社津工場の製産する所、工場は市内上濱町に在り、大正十五年三月の創設に係るものである。最近一ヶ年の産額九百拾九萬壹千圓

【タオル】 タオル製織業の津市に起りたるは明治三十八年で三重輸出浴巾商行なるもの之を經營せしが、其後一興一廢新陳代謝を経て發達して販路次第に擴展し最近年産額價格百五十二萬三千餘圓、東京、京都、大阪、名古屋等へ移出して好評あり、普通タオルの外に「おぼろタオル」と稱するものがある、おぼろタオル株式會社の製織する特許製品で、巧に繪模様其他文字など表はし、其意匠体裁瀟洒にして優婉なるを以て知られて居る、當市タオル業の逐年向上發展に向ふは寔に喜ぶべきことである。

【生絲】 生絲は津市主要製産品の一にして主として關西製絲株式會社の製産する所である、同會社は明治二十九年一月の創立にして現在資本金百四拾萬圓を有し、工場は津市の外に松阪市、一志郡高岡村、伊賀上野町にあり市内年産額百七十四萬五千餘圓に上る、製品の大部分は米國に輸出せられて居る、又蠶種製造部を置き桑園及飼育場を設け蠶業講習所を附設して技術者の養成と飼育法の改良普及にも努力して居る。

【梳毛糸】 錦華毛糸株式會社工場の製産に係るものにして昭和九年一月の創設にして最近一ケ年の生産高約壹百四十萬所價格參百九拾七萬圓を製産、猶進んで將來の發展に向つて事業の經營に努力しつゝあり。

【人絹織物】 人絹織物は伊勢織物株式會社及津織物株式會社其他にして最近一ケ年の製産價額六拾貳萬餘圓に達し津市主要物産として逐年事業の擴張に努力しつゝあり。

【毛織物】 大正二年三月創立の大森織物合名會社工場並に昭和十年五月創立に係る倉敷毛織株式會社津工場、錦華毛糸株式會社津工場の製産にして最近一ケ年の生産額九百四拾萬餘圓に達し市工業前途の爲に欣ぶ可きである。【漁網及編網機】 漁網及び編網機は内外製網株式會社の製産する所である、漁網は綿糸製蛙股紐と本目紐にして同社製編網機は動力用と自動用の二種で、漁網一ケ年の産額六拾萬圓で本市主要製産品の一である、販路は内地沿岸、北海道、朝鮮、南洋、北米に輸出せらる。

【清酒】 清酒醸造業者の主なるは四戸で、古きは弘化元年の創業に係り最近の年産額三千石、價格貳拾七萬六千餘圓にして紀伊、近江、松阪市、宇治山田市其他の各地方へ移出し本市主要工産品の一である、津市及一志鈴鹿飯南三郡同業者の組織せる酒造組合ありて夙に醬油同業組合と協同設立に係る醸造研究所に依りて醸造方法の研究改良と事業の向上とを講じつゝある。

【醬油・溜・味噌】 是亦津市主要工産品の一にして醸造業者十戸あり、最近一ケ年千三百餘石、價格參拾七萬七千圓を産し縣内各地の外滋賀縣、大阪、名古屋等に販路を有す、味噌は溜醸造の副産物で年産額拾六萬六千餘圓價額四萬五千餘圓である。同業組合は縣下一圓を包括し中勢酒造組合と協同設立に係る醸造研究所によりて専ら醸造の向上發達に努力しつゝある。

【酢】 市内阿漕町山二造酢株式會社の製産する所で、最近一ケ年三千餘石、價額五萬七千餘圓を産し縣内各地並に縣外にも移出する。

【製氷】 津市に於ける製氷事業は初め三重製氷株式會社に於て之を經營し來りしが、其後日本水産株式會社之を繼承し、近時冷蔵事業をも兼營し逐年事業の向上を圖りつゝあり又、大正十四年三月津冷蔵製氷株式會社の設立を見るに至り、兩社の最近年産額壹百拾四萬六千餘圓價額貳萬壹千餘圓で、逐年需用の選増に伴ひ産額の増加と事業發達の趨向を示して居る。

【小麥粉】 津市に於ける製粉事業は西阿漕町鈴木製粉所及三重製粉興業株式會社の二社にして、何れも製品の上發達に努力しつゝあり、年産額壹千四百四十六萬六千餘斤價格壹百九拾貳萬圓餘に達す。

【靴中敷】 本市主要物産として逐年生産者増加し其の産する種類の主なる物は、羅紗等にして年額貳拾壹萬圓餘を算せられ、販路を主に各都市並に遠く諸外國、滿洲、朝鮮に求めつゝ異數の發達を示して居る。

【竹製ナイフ・フォーク其他籠製品】 津市特産品の一で市内鯛堀森田庄藏氏竹製品工場の製産する所である。製品の種類は竹製ナイフ、フォーク、ミートスキュア、毛糸編棒、割箸、五色箸等で年産額參萬六千餘圓であるナイフ、フォーク、スキュアなどは主として海外に輸出せられ、其他は概ね内地向として何れも好評あり前途益々有望となつた。籠製品としては加藤藤昇齊の製作する花器類最も優秀にして夙に聲價を有す。

【燗寸小箱木地】 松材を原料とする燗寸用小箱生地は從來之を伊勢木地と稱し聲價あり、尙最近は滿洲方面へ直輸出をなす、現在製造者二戸にして年額參萬九千圓を産す。(人名錄參照)

【茄子形團扇】 普通團扇の外に茄子形團扇と呼ぶものあり、其形様の優雅にして瀟洒なるを特色とし、維新前より津市特産として其名を知られ普通の團扇と其趣を異にするを賞用せられ、京阪地方に移出し其産額は七千圓内外である。

【あこぎ塗漆器】 古き歴史的沿革を有せざるも津市名産の一として認めらるゝは「あこぎ塗」漆器である、主たる製品は盆にて其模様は舊津藩侯の紋所である蕪と傳説の阿漕浦の「やがら」魚又は名勝安濃の松原の風景圖等の數種で製造者は市内丸之内本町の新漆器店である。

【妻楊枝】 妻楊枝の製造は明治四十四年市内下辨財町谷本捨松氏(錦盛舎)の創始する所、製品は内外二種に

分れ年産額壹萬七千圓である。

【伊勢晒】 伊勢晒は伊勢木綿と共に古くより其名を知られ木綿と消長を俱にし來つたが工業界の變遷に伴ひ明治二十年前より漸く衰運に傾き、同三十年後に至つて殆ど廢絶の姿となつた、當市吳服商中川屋本店主之を惜みて其復興を圖り、竹村及飯田某と協同し大正元年十月匿名組合を以て伊勢晒工場を塔世川畔に設けて晒業を復興したのである、其後大正十二年一月組織を變して合資會社と爲し、堅實な營業方針を以て經營しつゝあり、此の年産額は貳萬圓内外である。

【菓子及其他の物産】 菓子は未だ銘菓として弘く世に知られたるものなきも年産額貳拾七萬二千餘圓、家具及指物類五拾貳萬圓、皮革製品四萬壹千圓、其他各種の製品を産す。

【電燈・電力】 昭和十二年六月合同電氣株式會社合併に依り東邦電力株式會社津支店と改稱なす處となり、本社を東京市に置く。

【瓦斯】 合同瓦斯株式會社本社を津市に支社を縣下樞要の地に配し瓦斯の供給をなしてゐる、外コークス・コールドターの副産物が製造される。

は 工 業 機 關

【三重縣工業試験場】 明治四十二年四月の創設に係り、本場を津市下部田に、分場を松阪市（縣立工業學校内）に設け、本場に於ては主として染織工業松阪分場に於ては漆器、製紙、醸造等の化學工業に關する試験研究を行ひ當業者に對して實地指導を爲す縣設工業機關である。

【三重縣工藝協會】 本縣工藝品の改善發達並に輸出増進の目的を以て昭和九年三月の創設に係り事務所を縣工業試験場内に置く。

【三重縣釀造研究所】 三重縣醬油同業組合と中勢酒造組合の協同設立する所で、研究所を津市借樂公園前に設け醬油及び清酒の醸造に關して調査研究を行ひ當業者に實地の指導を爲し製品の向上を講じつゝある。

【津市立工業學校】 實際的工業技術教育を普及し工業發達の基礎教育を施すべく津市立工業學校として大正六年に之を創設し、昭和十二年三月制度を五ヶ年に變更すると共に工業學校と改稱したのである、建築、木材工藝の二科に分ちて教授し昭和十五年度より電氣科を増設し毎年工業界各方面に多數の技術者を送り良好の成績を示しつゝあり。

【津工業研究會】 津商工會議所内に在り市内及附近の重なる工場主、工業關係者、商工會議所工業部員等にて設立し時々斯業の問題に對し研究をなす。

〔四〕 交 通 運 輸

（い） 鐵 道

【省線參宮線】 名古屋、京阪方面より鐵路伊勢に入るものは參宮線龜山驛より南行、下の庄、一身田を経て津驛に達す、此間の行程僅に一五・四軒にして二十分餘を出でず、津驛より南三・八軒を距て、阿漕驛あり以て市の南北を聯絡して居る、若夫れ旅裝を津市の客舎に埋めて鐵路南行し、伊勢大神宮に參拜するには兩驛何れより僅に四二軒一時間で急行なれば四十分餘にて宇治山田市に入り、夫れより大廟を拜し了りて二見ヶ浦と鳥羽の景勝を探りて歸來するには僅に一日程を要するのみである。

【參急電鐵】 參宮急行電氣鐵道株式會社の經營する處にして本社を大阪市に置く。市の北端伊勢線江戸橋驛を連絡点として省線津驛を経て一志郡久居・中川を経て、西は大阪、伊賀方面、南は宇治山田市へ聯絡してゐる。他に北勢と南勢を馳驅する參急伊勢線がある、前身伊勢電氣鐵道と稱せし昭和十一年九月參宮急行電氣鐵道の經

營に移され、本市内東部を貫通して居る、之を省線龜山迂回線に比すれば八軒を短縮なす。更に北進して名古屋市に聯絡する同鐵姉妹會社である關西急行電鐵會社設立せられ、兩線相俟つて旅客の便に供して居る。

【中勢鐵道】 中勢鐵道株式會社の經營する中勢鐵道は津市を起点として久居町（三十三聯隊所在地）を経て一志郡川口に達する輕便線で遠からず電化する計畫である。

【安濃鐵道】 市内八町を起点とし椋本間を聯絡する輕便線で是亦市郡を聯絡する一線であるが阿漕驛まで延長の計畫は未だ實現するに至らない。

【乗合自動車】 本市を中心として市内一圓並近郊へ其の利便及ばざるはなく、市民の足として三重乗合自動車株式會社經營の市内バス網全市縦横に敷かれ幹線省線津驛阿漕間・大門町參急津新町驛間・高農校藤枝町間を始め津市を起点に久居町・一身田町・安濃村・會根方面を聯絡しつゝあり。巴自動車合資會社、榊原溫泉方面・長野村方面及村主村今徳方面に路線を敷き津自動車株式會社、一志郡奥津方面に旅客の便を計り現在三會社にして今後定期路線の擴張に努力せられつゝあり。

（ろ）陸路と海路

【陸路】 市の北端、市街の盡くる所は伊勢街道と伊勢別街道との追分で、大廟參拜の官道であつた舊時は勿論鐵道の便なき時代には車馬行旅の往來常に織るが如き有様であつた、西すれば伊賀街道あり、阿漕驛を右に見て南すれば久居街道に出づ、久居町は津聯隊（歩兵第三十三聯隊）兵營の在る所である。市内の橋梁は新岩田橋、舊岩田橋、塔世橋、極樂橋、小島橋、櫻橋、御山莊橋、江戸橋、赤橋等で新岩田橋は市の中央を貫流する岩田川に架し大正十年の竣工に係り、岸頭に聳つ百五ビルディングの四層樓と相對して市坊の一美觀である。新塔世橋は安濃川に都市計畫と相俟つて舊橋の下流に架設されたるもので昭和十年の竣工である。

【海路】 海路は大阪商船會社汽船の定期寄港ありて大阪、名古屋、四日市間の交通運輸を便にし、又和船の去來

常に絶えることなく、肥料、石炭、米穀及荒物雜貨等を集散する。津港（贊岐港）は岩田川の海に朝する所に在り、港頭南北に防波堤がある、港頭に竿燈の設けありて船舶の航行を便にす、少しく河口を溯れば船溜あり之を新堀と稱す、安政六年舊藤堂藩の開墾せし所である。

（は）郵便

【郵便電信電話とラヂオ】 通信機關は年々著しく發達の續を示し、就中電信、電話は逐年激増し來り、設備の猶未だ之に伴はざるものあるは甚だ遺憾とする所である、市内電話の始めて開通したるは明治四十年二月で恰も第九回關西府縣聯合共進會の津市に開催せられたる二ヶ月以前であつた。現在加入者千八百五十五名逐年加入申込者増加の趨勢を示して居る。「ラヂオ」は大正十四年七月名古屋放送局の放送開始の際に始り、現今市内に於ける聴取者数は五千名餘にして逐日増加しつゝある。

〔五〕沿革

（い）『津』の沿革

【地名の由来】 舊記を接するに津市は往古「安濃津」又は「安乃津」とも記してある。それをいつとはなく略して一般に「津」といひならひたるは安濃の船着にて海濱の湊なりし故なるべし、又「穴津」とも云ふは「安濃津」の轉訛で、「洞津」とは明人茅元儀が其著武備志、日本考に支那風の稱呼に書き傳へたるに因れりともいふ【市街と港灣】 往古の「津」の町は今の位置より東方瀕海の地即ち阿漕浦の西方津興に在つたが、今を距る凡そ四百三十年前の明應年間（御土御門天皇の御宇）大地震と大海嘯起りて瀕海の地一朝にして陥没蒼海と化した

爲め海波の難を避けて今の地に移つたのであると傳ふ（今猶津興の田圃中に當時の字名を存す）古史に所謂日本三津の一として其名を知られたる「安濃津の港」は今の岩田川口を稱したのでなく、津興の東方阿漕浦に在りしと云はれて居る、（阿漕浦の沿岸に「元口」と稱する處は元の津口であると傳ふ）舊記を接するに安濃松原の阿漕浦にて岐るゝ所、一帯の白砂青松徐に彎曲して遙に海中に突出で、南は雲津の崎と相對して南北より抱擁する處其狀恰も壟口の如きものは即ち安濃津の港で、水深くして波靜かなる天然の良港灣であつたが、惜かな明應の大震災の爲め洪波澎湃として襲ひ來り、風光明媚の「安濃の松原」を沈め、堆砂流れ來りて碧灣を埋め沿海一帯遠淺となりて安濃津の港は跡形もなく消え失せたのであると云ひ傳ふ、阪十佛の伊勢大神宮參詣記（康永元年十月の紀行）に「伊勢の國安濃津と申す所に着きて侍りし程に（中略）此津は江めぐり浦遙かにして往來の舟人の舟に漕く聲云々」と記しあり以て明應震災以前の津の港が今の如き川口でなかつたことを首肯せらるゝであらう。

【發達の経路】 上古の「津」に關しては載籍詳ならざるも稍其狀態の一斑を髣髴するに足るものはない、蓋「津」の有したる天然の良港灣は古の「津」を發達せしめた一大動力であつた。若しこの天惠徴りせば「津」は伊勢街道中の一寒驛として纔に道中記に其名を留めたるに過ぎなかつたであらう。和銅風土記「安濃津」の條を見るに仁徳天皇三年に三津を定む其一なり、夷方の繼船本邦公私の着船湊入の船客此に來りて其風雲を待つ擧國の名湊なり、國府を去ること二百二十里富饒德有の地なり、驛宿を准し公穀其三の二を減す云々」と記せり、之に因りて之を考ふるに當時の「津」は天然の良港を控へて東海徂徠の船常に絶ゆることなく行旅の來往も亦少なからざりし海陸交通の要驛であつたことが臆氣に想像し得らる。【津】は天延貞元即ち今を距ること千年以前には安濃津三郎平貞衡、清衡、正盛、忠盛等平氏の累代治府を置いて居を構へたる地で城壘は永録年間時の領主細野壹岐守藤敦の始めて築造せし所である、其後織田信昌、信兼等相次で此地を領有した、此時代に於ける狀態は蕃かでないが慶長の初富田信濃守知信の城主であつた時代には市塵繁榮して城市の地域も亦廣きを加へ伽藍塔輪奐の美觀るべきものあつたと云ふ、惜かな慶長五年關ヶ原勢の攻むる所となり城下は修羅の巷と化して一蹶復

起つ能はざる慘狀を呈した、而して「津」が此死地より復活して新生面を開くに至りたる藤堂氏移封の後である慶長十三年津藩祖藤堂和泉守高虎の封を承けて伊豫より移りたる當時は恰も兵燹の後を承けて城下荒寥商賈衰微し民戸僅に五百に満たなかつたといふ、亦以て其衰殘の一斑を推知し得らるゝであらう。

藩祖移封後の「津」は政治的勢力の振張、撫民興産の政漸次其緒に就くに伴ひ遠近子來して民口の滋蕃と共に兵亂の創痕次第に癒えて活力を回復し、市塵は面目を一新して商業は兵亂以前に比して迥に繁榮を來した此時代は津の商業の復興期であるが其取引範圍は猶狭小にして市隣の町村に止り、遠く地方地域を有せなかつた、夫れより逐年地域も擴大して股販を加へ寛永時代に至る頃には木綿商が進みて販路を江戸に開拓し、更に東北奥羽地方に及び富商家賈が木綿問屋の暖簾を掲げ實力を以て江戸の商界に重きを爲したのは實に此時代であつた、所謂江戸大傳馬町の伊勢店として今猶其名を知られて居るが即ちそれである、爾來藩政善く整ふて文教振ひ武備修り大賈小商賈を駢べ市坊は益々股販となり居然として東海の雄鎮、伊勢の名邑として其名を俚語に歌はるゝに至つたのである、之を要するに明治維新後の社會狀態の變轉、交通の便開けてより時に消長のないではないが、一言以て之を蔽へば秩序的に穩健なる發達の経路を辿り、今日に至つたのである。

「津」は舊安濃郡に屬したのであるが明治二十二年五月同郡を離れて獨立し始めて市制を布き津市と稱した。

ろ 商業の沿革

【銀行其他金融機關】 明治維新前に於ける金融機關は頗る幼稚にして三十五萬石の城下纔に藏屋（藩士の知行扶持米を擔保として年中の諸費を立替へ俸祿受領の際之を賣却して元利の決濟を爲すもの）質屋、銀札引換所、小引換所並に一戸の兩替店があつたのみで、維新後に至つて漸く一兩替店を加へたのであつた、其後國立銀行の各地に設置せらるゝに及び始めて第五國立銀行（資本金八萬圓）の設立を見るに至つた、是實に明治十一年十二月で今の株式會社百五銀行の前身である、其後明治二十七年三月津農商銀行、同二十九年九月伊勢銀行相尋で起

り、同三十年十二月特殊銀行として三重縣農工銀行の設立あり、昭和十二年五月日本勸業銀行へ合併し現在同行支店として營業し、明治四十二年伊勢銀行は不幸にして解散した、又同三十年九月四日市銀行の支店開設に次で同三十二年九月愛知銀行支店、同四十二年二月不動貯金銀行支店、昭和二年三月津農商銀行は四日市銀行と合併したるも昭和七年三月不幸にして本店休業し續いて當支店も閉鎖するの餘儀なきに至つた、昭和三年三月勢南銀行亦其支店を置き、各銀行とも逐年發展向上を來した、又大正五年六月共融無盡株式會社、同十二年三月には津信用組合など一種の金融機關として設置せられ中産以下の爲めに更に金融の便を開くに至つた。

【正米市場】 津市新東町に在り昭和八年十二月商工大臣の認可を得て設立し同九年一月業務を開始したり、同市は毎日二回入札の方法に依るものにして、業務開始以來日々相當數量の取引はれつゝありしが、期限満了と共に閉鎖したり最近日本米穀株式會社の經營に係る正米市場設立せらるゝに至れり。

【魚市場】 魚市場（市内魚町）の創設は遠く元祿以前に在るも其年代詳かでない、始めは九戸の魚問屋があつて魚市場を開いて居たが、元祿の頃より三戸に制限せられ新に同業を營むことを許されず、仲買の間屋に對する代金の支拂を延滞する時は營業停止若くは追放を命ずる等の嚴重なる制裁を設けて市場を保護し、問屋よりは貢租として賣上高の百分の一を藩廳に納めしめたが、明治維新と共に問屋に對する此特典は自然消滅に歸した、維新前には賣留と稱し、毎年十二月二十六日限りにて問物の賣買を停止した、現今の株式組織以前には問屋は三戸にして二戸（辻彦作、岡藤左衛門兩家）は元祿以前より知られたる老舗で、一戸（羽田吉太郎氏）は明治二十年の開業に係り之を三隣組合と稱して營業したのである。

【青物乾物市場】 入江町の青物乾物市場は明治四年芝原七右衛門氏の創設で今の株式會社津青物商會の前身である、片濱町に在る（天春源太郎氏の經營する所である）。

（は）工業の沿革

【伊勢木綿】 古來伊勢綿と稱し、津市及び安濃、河藝、鈴鹿の三郡にて製織する絹綿交織せ、其起原は遠く文祿の昔に在る、文祿の初め棉種の本邦に傳はるや安濃郡の農村に於て之を栽培し、績糸となして製織したるに始り爾來農家の副業として漸次に發達し、伊勢晒と共に其名を遠近に知らるゝに至つたが、其舊來の面目を一新し商品の目的を以て製織するに至つたのは慶長以後である。其後津藩より勤儉令出て絹布の着用を禁ぜられたる爲め爾來絹布の需用を増進し慶應年代迄は盛に製織した、明治の初年戦亂の爲め打撃を蒙つたが、其後次第に衰勢を回復し七八年の交に至りて絹綿交織を始めた、伊勢綿糸入なるもの即是である、爾來幾次の變遷消長を経て伊勢綿の聲價揚く掲り産額歳と俱に増進した、明治三十六年十月津市外三郡を地區とせる伊勢織物同業組合設立以來組合證紙の織込、製品の検査を勵行して粗製濫造を戒め、不正品の賣買を取締ると同時に、種々向上的施設を以て品質の改良販路の擴張に努めつゝ現今に至つた。

【津綾子】 古來津市の名産として其名を知られたるものに津綾子がある、元は麻織にして津市の西隣安濃郡清水、内田の諸村で製織したもので、其起原は審かでない、文祿三年の領主羽柴下總守より清水村の貢米増課を命ぜられた際其代償として綾子織を同村の特産たることを免許せられし以來隣邑にても製織せしものをも同村にて練製染色して之を津の町に販賣した、後慶長十三年藩祖移封以來藩侯より毎年恒例として之を朝廷及幕府へ献上することになつて居た、其後麻織の外に綿織及絹織も製産せられ、明治維新前後までは羽織、肩衣、蚊帳等其用途少なからざりしが、時代好尚の變遷に次第に其用途を失ひて自ら衰退を來し纔に津特産の飾を織物界に留むるのみである。

【銅器】 天正寛永年間（三百年—三百五十餘年）市内釜屋町に居住した辻越後守と云ふ鑄物師は斯道の名匠で其子但馬守越後守も亦鑄造の妙手であつた、其作る所の釜は「伊勢釜」と稱し今猶好古家の珍重する所のもので津市に於ける銅器製作の濫觴である。

由來津市にて製作する銅器の製法は蠟形及總形の二様あり、前者明治九年當市の骨董商若林吉兵衛（釜吉）が京

都の鑄工にして當時同店に身を寄せたる平井安兵衛なる者に資を給して製作せしめたるに始り、時の縣令岩村氏の推輓と相俟ちて斯業發達の基礎を爲したのである、後者は今の鑄造者黃地直次郎氏が明治十七年始めて鑄造し其後二十三年前記鑄工の後を承けて品質の精良と販路の擴張に努め、又釜吉の後嗣若林はやは明治二十四年頃より先代の遺業を紹き製作上に苦心する所あり外國商館と取引を爲し、兩者相俟ちて其製品は中外の好評を博し「伊勢銅器」の名は輸出品として弘く外商の間に知らるゝに至つたが其後釜吉の廢業と共に主として内地向製品となりたるも時局統制により休業状態なり。

【阿漕燒陶器】萬古燒の陶祖沼浪弄山の弟に端牙といへる人が寛保年間（凡百八十五年前）製陶を以て津藩に聘せられ、陶土を安東の山（今の安濃郡安東村觀音寺）に取りて製陶を始めた、是れが「安東燒」の濫觴である、其法弄山より出で、別に一家をなし其形古雅にして質亦實用に適するを以て、當時意を興産に用ゐたる津藩廳は其製陶を獎勵し支舗を東都に開いて弘く之を世に發售せしめてから愛陶家の之を賞用するもの多かつたといふ、其後故ありて竟に之を廢絶した（或は云ふ公儀に對し陶名を忌み憚りて閉窯したるなりとも傳ふ）此古陶の今に存するもの少く好陶家之を珍重し値も亦甚だ高くなつた、嘉永二年の頃倉田久八なる人業を長崎の陶師寶山藤朔に受け、新に窯を開き之が再興を企てしも製品意に適せず、更に京都松風亭の陶法を學び同六年始めて松風亭安東燒を製出した、又別に陶土を半田山に取り之に阿漕浦の鉄砂を練合して製陶し眞鍮線を以て各種の象眼を施し之を象眼燒と稱した。其製法蓋七寶燒に類して居る、而して其窯の阿漕に在りたる故を以て又呼んで「阿漕燒」とも稱した、弄山萬古より換骨脱胎せる安東燒は此の如くにして發達したるも惜哉後繼者其人を得ず象眼燒發達の新嶽は中道にして枯凋し爾來専ら松風亭の陶法を襲ふて之を製作した、今所謂「阿漕燒」とは即ち是である。明治三十二年阿漕燒陶器株式會社起りて一時盛に製造したが社業振はずして經營意の如くならず明治三十六年九月終に解散した、爾來後繼者を替ふること再三、市内素封家田中治郎左衛門氏の後援に頼つて開窯した重富製陶所も亦前轍を履み經營意の如くならずして休業したのは遺憾である。最近新井某氏を聘し再興を圖りつゝ

あり。

【茄子形團扇】文政年間津藩士別所安連なる人公仕の餘暇同好者の爲に之を創製するや、其質堅牢にして兼て雅趣あるを以て大に同好者の賞用する所となり、藩侯も亦特に命じて之を作らしめ、之を幕府及諸侯へ贈進られたから、好評噴々之が製作を囑するもの多かつたが公暇の餘業であるから遍く江湖の需めに應ずることが出来なかつた、明治維新後に至り公然同家に於て其業を營み之を製造販賣した、「茄子形團扇」の名此れより漸く遠近に知られ土産物として賣行少なからず、其後市内の團扇舗に於ても亦之に倣ふて製造するに至つた。

〔六〕古名匠

古來津には名工鉅匠の傳ふべきもの一二に止まらないが、惜むらくは記録の徴すべきもの鮮く纔に古記の一部と口碑傳説に其事歴の一斑を髣髴するのみである、鑄工辻越後守父子、籠師莨々齋、彫刻家岷江等の如き即それである。蓋吾津の美術工藝史を飾るべき此等名匠の事歴を傳へて置かなければ其作品の散逸亡損と共に事歴竟に湮滅して其名も亦世に設れらるゝに至らんことを恐れる、乃ち之を遺老の言に聽き口碑傳説に稽へ或は記録の斷篇を探りて得たるものを捕綴して之を左に録す。是固より其片影を捉へたるに過ぎないから他日資料を得て更に之を補正する積りである。

【鑄物師辻越後守・但馬守・越後守】辻越後守家種は本邦鑄工の棟梁にして晩年薙髮して暫任と號した天正の頃より津に來りて今の釜屋町に居住して（釜師の居住せし所であるから此稱ありといふ）、嘗て夫の京都大佛殿の巨鐘を鑄造して名を博し、又豊太閤の愛好品として好古家の垂涎して措かさる「手取釜」は越後が太閤の命を奉じて崎人粟田口善輔の愛用せし茶釜を模造したものであるといふ、越後の二子但馬守吉種及び越後守重種亦善く父の衣鉢を傳へて鑄造に妙を得、其作る所の釜は世に之を「伊勢釜」と稱して賞玩せられた又但馬は時の藩侯大

通公の命により一丈二尺四方の大水盤を箕手山（今の市立病院の在る處）に於て鑄造したことがある、今猶岩田橋の欄干に存置する擬寶珠は寛永十二年橋梁替の際越後守の製作せし所で古色蒼然として昔を語る恰好の記念物である。

【籠師菫々齋】 菫々齋姓は小林、初代兵藏、二代竹次郎、三代を角之助と云ひ代々も決して溢美ではない相承けて籠の名手であつた、殊に初代の如きは其入神の妙技に於て蓋天下名匠たりと謂ふ、三代歿後其未亡人に依りて繼に其の衣鉢を傳へて來たが、惜哉今や其傳統幾と絶え初代菫々齋の作品の如きは次第に散逸して少く其價益々高い。初代の妙技の非凡であつた一例としての傳説に、初代菫々齋大阪の畫家兼葭堂（木村孫異齋）と交あり葭堂一日大廟參拜の途次菫々齋を訪ふ、其着する所の羽織籠製にして極めて精巧であつた、菫々齋之を借受け、二枚に割き放して元の同一の羽織を作り厚く謝して兩つながら之を返した葭堂之を見て驚嘆措かざりしといふ、是固より一傳説に過ぎないが其非凡の天才を有する名手として當時重きを爲したることを首肯される、菫々齋の製作に用ふる煤色竹の着色法は初代の苦心研究の結果になれる家傳の秘法として代々之を傳へたといふ。

【彫刻家岷江】 田中岷江は惇徳、通稱を藤左衛門といふ、津藩士にして弓馬の餘技として頗る木彫の技に長した殊に根付の彫刻は其最も得意とする所で其技精妙巧緻眞に入神の概がある、其最も多く刻したるは動物果實にして物々皆生動するの趣がある、殊に達磨の如きは赤眼金眼轉々廻動するが如き又道成寺鐘の根付の如きは此種彫刻中精緻を極めたる名作なりと云はれて居る、岷江の名世に喧傳するや、四方之を囑するもの多く當時既に其をの名を冒して贗作したものがあつた位である、岷江又興到りて繪畫を作りしことあり氣韻風格亦一種の雅趣あつて筆致蕭白に似た所がある、文化十三年八月八十二歳の壽を以て逝いた。

【彫金家巨齋】 彫金の名匠にして殊に矢立の製作に妙を得た、技工の精妙と雅趣があるので今尙文房の珍として賞玩せらる、且齋又興到つて詩歌俳句を作る、罕に其遺墨を見ることがある。

〔七〕 神社 佛閣

【別格官幣社結城神社】 市坊の南、八幡町の盡る所、左折すれば一路青松、行くこと町餘にして松栢森々として鬱茂するは結城の森にして、別格官幣社結城神社の鎮座する所である、祭神は南朝の忠臣結城宗廣朝臣で、其子親光朝臣及び殉難將士の靈を配祀してある、祠殿の傍にある一大墓碑は公の忠魂の永へに眠る所である。碑の高さ一丈三尺餘題して「結城神君之墓」といふ、往昔此墓側に一小祠あり結城明神と稱した、文政七年時の藩侯藤堂高兌公（誠總院）深く公の誠忠大節を欽仰し其祠宇を修め碑を立て、親ら其表に題署し、儒臣津阪東陽をして公の偉勳を碑陰に勒せしめた、明治維新後神殿漸く荒敗するや川口常文氏（後の官司）之を慨し、朝野の間に奔走して大に墳墓を修拓し新に神殿を造營し輪奐全く觀を改めた、明治十三年聖駕西狩して公の精忠を追賞して祭案を賜ひ、尋で十五年一月特に別格官幣社に列せられた、毎歳五月一日例祭を行ふ、史を按ずるに、延元三年九月公再び北畠顯信卿と共に義良親王に奉じ、奥州に下り義兵を糾合して天下を恢復する雄圖を懷き、海路伊勢の大湊を發し伊豆崎に至りて颯風暴かに起るに會ふて一行と相失ひ、海に漂ふこと七日吹流されて吾が安濃津に漂着し順風を俟つこと旬餘、不幸にして疾に嬰り千秋の恨を呑み切齒劍を按して遂に瞑せりと傳へられて居る。昭和十二年五月六百年祭を行ひ社務所、繪馬殿の新築、境内擴張、神苑の整理等を行ひ面目を一新したり。

【八幡神社】 結城神社に隣りて縣社八幡神社がある、祠廟社殿丹碧燃燦として神々し、毎歳秋季の津市大祭には各町より山車を練出し、餘興賑かに遠近來觀するもの頗る多い。

【高山神社】 縣社高山神社は丸之内本丸舊城址内に在る、津藩祖藤堂高虎公の靈を祀る、毎歳四月、十月例祭を行ふ。

【惠日山觀音寺】 市の中央、大門町に在り、眞言宗にして正觀音を本尊とする勅願建立の名刹である、慶長五年兵燹に罹り其の十八年時の藩公藤堂高虎公が之を再建したといふ、仁王門に入れば觀音堂あり、堂宇宏壯陸然として聳ゆ、本堂を周りて阿彌陀堂、辨天祠、祇園祠其他の諸堂があり、寺坊數院亦其傍に連る、此寺は伊勢三十ヶ所の第十四番として巡拜者の隨喜する所である、國府阿彌陀も亦觀音と與に其名世に高く、賽者常に絶ゆる

ことなし、境内は市人遊樂の區で、劇場あり、寄席あり、活動寫眞常設館あり、露店小肆もあつて客を引き、盛夏の候最も雜鬧を極む、商工會議所及銀行集會所も亦此境内に在る。

【塔世山四天王寺】 橋北榮町に在り、曹洞宗の古刹にして聖德太子の建立せる東四天王寺と稱せし名伽藍であつたが兵燹の厄に會ひて堂塔悉く烏有に歸した、久安三年（七百八十餘年前）再建し永祿八年又兵燹に罹つた、後元和年間藤堂高虎公之を再建したりといふ、今の本堂即ち夫れである、境内に藥師堂、辨天祠及稻荷祠等がある、藥師堂は永祿兵燹の厄を免がれたる本市寺院中最古の堂宇で保護建造物の一である、寺寶として同寺に傳はれるものゝ内にて國寶と定められて居る佛像は本尊藥師如來像（傳教大師作）外五鉢其他聖德太子畫像（自畫賛）藤堂高虎公室久芳院畫像及民部省圖牒及士女貢進狀（康平年中のもの）等古書畫、古文書を什藏す、境内古寂幽閑塵外の想がある。

〔八〕 勝 地

【借樂公園】 津停車場の西數町丘陵の起伏する所に借樂公園がある、舊此地を廣明の里と呼び藩侯の政暇逸豫の遊苑として、安政年間江戸染井の別墅より珍石奇木を齎して修造せしめ、花木泉石整然として布置し臺榭樓閣山に踞し池に臨み山海の勝を此一區に收めた、明治維新後一旦その荒廢に歸せんとするや、明治十年時の岩村縣令之を惜み請ふて三重縣公園と爲し、爾來石井知事を経て漸次修理を施し、後更に移して津市の公園となつた。園に梅櫻あり躑躅楊樹あり、池頭の古藤、架に倚りて水を掩ひ、春色秋景最も宜しく、夏は綠蔭冬は雪景四時俱に景趣に富む、園の最も高き處に象觀亭がある俗に之を傘の臺といふ、其東北、山開ける處展望最も佳にして安瀾浦の風光は坐して之を双眸の中に收むる得べく、更に遠く眸を於けば、煙波縹緲の間、遙に勢海を距て、參尾の翠黛を浮べ、眼界豁然として勝望殊に快である。

廣明館は舊藩侯隱居の所にして、其洋室は明治四十年第九回關西府縣聯合共進會當時の建築に係り、大正天皇の東宮にましませしとき御駐泊の榮を荷ふこと前後二回、館内に安瀾津俱樂部あり和洋の割烹を爲す。

停車場より公園に入る右方に華表の儼として神殿の聳ゆるは縣社護國神社で、其西に在るは武德殿である、節を公園に曳くものは、歸路密藏院山に登臨するも亦一興である、山は白山と稱し、公園に近く其東麓に停車場がある山は小なるも樹石幽趣、眺望の快亦公園に勝を譲らず、山上に小寺あり密藏院といふ、山を繞り八十八箇所の靈場に擬するものがある、月の二十一日賽者歩を接し、香煙經えず、亦塵外の勝區である。

【阿漕浦—阿漕塚】 幾代詩人の吟囊に入り院本謠曲に詠はれて其名の人口に膾炙する阿漕浦は、津市の東海岸にして岩田河口の以南一帯の清渚を指して云ふのである。但俗の傳ふる所によれば、此海面は古昔大廟御贄調進の漁場にして、病親の爲に禁魚の制を犯せし孝子阿漕平治を養巻となして沈めたるは此浦なりと傳へられて居る。此瀕海一帯松翠に砂明かに渚清くして遠く、征帆歸舟煙波縹緲の間を徂徠し、尾參の翠巒は指顧の裡に在つて風景の勝海浴の便罕に見る所である、楯干の漁遊に至りては此の地の一名物にして他郷には多く見ざる所毎年五、六月の候を以て好期とし、漁遊中の最も快なるものである、初春晚秋亦漁遊の娛がある、若夫れ盛夏の候に至りては、海水浴客常に群を爲し、觀海流の泗水教場も亦此に設けられ、遠く尾參、近畿京阪地方より浴客と學生の來るもの毎年數萬を下らず、浦頭砂清き所にある記念碑は明治四十五年五月 大正天皇の猶東宮に在せし項、縣地行啓本市御駐泊の際藤堂伯の請を允され、畏くも此海岸に成らせられ、楯干の漁遊台覽の榮を賜ひたる所有志相謀りて之を不朽に傳へんとしたものである。

阿漕浦には津停車場より俚行凡そ三十二丁、阿漕停車場よりは僅かに十七丁にして違す。

阿漕塚は阿漕浦の西數町田畝の間阿漕の森の中にある古塚で、碑面に阿漕塚の三字を刻す、此碑は天明二年市内綿内町の人吉郎兵衛等の建てし所、其傍に句碑がある、俳聖芭蕉翁の「月の夜の何を阿古木に啼く千鳥」の俳句を刻してある、碑面は東都の俳人雪中庵完來（津藩士にして姓は富増、雪中庵蓼太の高足にして後、庵號を紹きた

る人)之を書し、碑は文化十三年仲春市内京口町阿漕庵雁路(村田長兵衛氏の俳號)の建立せる所である。

阿漕の故事に關しては、其出典の據るべきもの未だ確かならず、俚俗の傳はる所によれば蠻人阿漕平治なる者海魚「やがら」を得て母の疾を醫せんと欲し、夜陰潜に網を禁魚の阿漕ヶ浦に投じたことが露見して捕へられ生ながら餐卷となして海中沈められたりといふ、此事院本謠曲に粉飾舖張して之を傳へ來たのである、毎年七月十六日法會を營み、其靈を弔ふを例として居る、此夜市中近郷より來り賽するもの絡驛堵を爲し雜鬧を極む。

【贊崎海濱】 岩田川の海に朝する所に一區あり贊崎と稱す、是より北、瀕海一帯の清渚を稱して贊崎浦と呼んで居る、白砂青松遠淺にして最も海水浴に適し、夏季は遠近來り浴する者常に群を爲し爲海濱一帯參々伍々人を以て埋まるの盛況を呈す、此地は舊は遊廓の在りし所で其當時は紅樓薨を聯ね市端繁華の別天地であつたが、明治三十九年遊廓撤廢以來全く舊時の觀なきに至つた。

【安濃浦】 塔世川口より南、白砂青松の連る一帯は古歌に名高き安濃の松原と稱せし地(往古の松原道は明應の震災にて陥没したりと傳ふ)で、此瀕海一帯を稱して安濃浦と云ふ、渚清く遠淺にして海水浴に適し又楯干の漁遊を爲す者少くない、此邊一帯も亦煙波穩かにして風光の明媚なること阿漕浦と伯仲の間である。

【御殿場】 市の南端參急電鐵伊勢線米津浦停留場より徒歩約五分結城神社の東南に在り此の地白砂青松遠淺にして楯干網漁遊の好適地、貸間、貸別荘、浴場、ベビーゴルフ場等の設備あり春夏季は遠近より來遊する者群をなす。

【瓦古塚】 市の西部大字刑部谷川神社境内、木立茂る處に谷川士清翁の反古塚がある、翁は國學界の偉人たることは今更言ふ迄もない、翁は著作物の原稿の若干部分を茲に埋めて碑を建てたのである、近く碑を中心に小公園とすべく計畫されて居る。

津商工人名錄

津商工人名錄目次

肉類 七
 花物 六
 鼻緒物 六
 履物 六
 糸類 六
 石類 六
 飲水類 六
 印刷屋 六
 石印 六
 飲食物 六
 醫器 六
 印刷器 一

豆腐 一三
 刀劍 一三
 塗料 一三
 藤細工 一三
 時計器 一三
 陶磁器 一三
 度量衡器計量器 一〇
 ハンキ 九
 保險衣筒 九
 保法 九
 啣子 八
 朝筒 八
 帽子 八

蒲海産物 一八
 金物 一八
 紙物 一八
 株式・有價證券 一八
 菓類 一七
 綿類 一七
 桶類 一七
 旅館料理 一三
 茶器 一三
 茶器 一三
 蓄音器 一三

洋服 二七
 蚊鉗板 二七
 カフェ具 二七
 玩具 二七
 傘板 二七
 看板 二七
 瓦物 二七
 果物 二七
 硝子 二七
 活字 二七
 紙函 二七
 皮函 二七
 樂器 二七
 菓子類 二七
 家具・指物 二七

小島香水 黒板 薬 廣告取次 電燈・電機 鐵工 手袋 館 青物市場 青物・乾物 荒物・雜貨 網 油 酒 砂 糖類

て 六
あ 三
さ 六

材木 蠶具 晒 銀 行 貴 金 錢 貸 付 貴 金 屬 機 械 類 生 箱 木 綿 糸 綿 布 眼 鏡 磨 砂 磨 石

き 七
め 七
み 六
し 六

手藝材料 飼料 醬油味噌 質屋 漆器 書籍 薪炭 鹽 食料 人絹品 自動車 自轉車 寫真・寫真材料 寫真・寫真材料 紹介業 銃砲火藥 刺繡 百貨店 肥料

ひ 六

表具師 紋繪師 精米 石油 石炭 洗濯業 染料 七メント 線香 セロファン 酢

も 七
せ 七
す 六
附錄 六

洋品・雜貨 楊子 洋裁生地 足袋・メリヤス類 タオル 疊・疊表 竹材 竹細工 煙草 樽 種 子 束 煉瓦 煉炭 草履表

た 三
れ 三
そ 三

倉庫業 染物 造花 釣道具 仲立 仲立 無麥粉 魚市場 魚類 運賃 請願 團扇

つ 三
な 三
ら 三
む 三
う 三

運動用具 植木 薄板 農具 靴 靴中敷 府物 藥品賣藥 繭 繭寸箱生地 毛織物 鷄卵 建築材料

の 四
く 四
や 四
ま 四
け 四

文房具學校用品 蒲團 古着 佛壇 佛具 古瓶 古道具 古工 試力細工 武道具 鉄 米・雜穀 吳服・太物 小間物・化粧品 ゴム製品 骨董 糝味噌 水

ふ 三
ま 三

| | |
|-----------------|-----|
| 商業組合 | 九 |
| 工業組合 | 一〇 |
| 同業組合及 組合聯合會 | 一〇三 |
| 商工業組合及團體 | 一〇三 |
| 官公衙 | 一〇七 |
| 學校及圖書館 | 一〇八 |
| 鐵道 | 一〇九 |
| 新聞社・通信部 | 一〇九 |
| 興信所 | 一一〇 |
| 津商工會議所 議員及役員 | 一一〇 |
| 市會議員 | 一一三 |
| 縣會議員 | 一一四 |
| 貴議院議員 | 一一六 |
| 衆議院議員 | 一一六 |
| 所得稅調查委員 | 一一六 |
| 商事調停委員 | 一一七 |
| 金錢債務臨時 調停委員 | 一一七 |
| 人事調停委員 | 一一八 |
| 小作調停委員 | 一一九 |

印刷部

| 營業別 | 營業稅額符號 | 營業所 | 商號 | 電話番號 | 氏名 | 名稱 |
|--------|--------|-----|--------|------|-----|--------|
| 印刷(活版) | ア | 下田 | 新精社 | 九一八 | 青山 | ヤエ |
| 印刷(活版) | ウ | 榮町 | 小寺活版所 | 六八 | 小寺 | 庄三郎 |
| 印刷(活版) | エ | 萬屋 | 共昌社 | 三六〇 | 大山 | 義資郎 |
| 印刷(活版) | ア | 釜屋 | 山村活版所 | 五二二 | 長谷川 | 文次郎 |
| 印刷(活版) | イ | 新東 | 求榮堂 | 二二九 | 山田 | 淺次郎 |
| 印刷(活版) | イ | 地頭 | 野呂印刷所 | 七五二 | 安田 | 吉太郎 |
| 印刷(活版) | ア | 南濱 | 堀石版印刷所 | 一三五 | 前川 | 秀次郎 |
| 印刷(活版) | ア | 乙樂 | | 一四六一 | 堀村 | 辰三郎 |
| 印刷(活版) | ア | 極樂 | | 四二五 | 吉村 | 英一 |
| 印刷(活版) | イ | 分之内 | | 四七一 | 松永 | 榮吉 |
| 印刷(活版) | イ | 丸之内 | 高畑印刷所 | 四七一 | 弘陽 | 印刷株式會社 |

飲食物 (酒販賣) アア
阿漕町酒善 一四二
小倉柴田善長三治

石屋

石材 (加工) アイウ
上濱町 石吉 二六四
石吉本店 六九六

秋田吉之助 秋田吉次郎 山口爲三郎 中山島文藏 池宮倉吉 池宮佐太郎 池宮平太郎 土保平太郎 増井要次郎 服部福松

印判 一七二 米村二郎

西阿漕町 綿阿漕町内 極樂町 餘慶町

印判

印判 一七二 米村二郎

飲料水 古河 一七三 下村米次郎

石灰

石灰 (陶磁器) イ上濱町 加藤新五郎 七二八

(陶磁器、鹽、セメント、煉瓦) ウ分町 清水與左衛門 四一五

(金物、建築材料) オ乙部 倉田半七郎 九五八

(建築材料) オ乙部 倉田半七郎 三二六

糸類

梳毛糸製造 下田 錦華毛糸株式會社 一一四一七 一四七六七

糸類 (洋裁生地) 立町 濱田商會 四七六

(毛糸手藝材料) アイア 西田義一郎 一五二三

(煙草) ア北町 長谷川菊三郎 七七二

獸 〃 双 〃 生 鼻 〃 〃 〃

肉

肉ノ物双花花緒鼻

ア部 アア イア ア アアイ

下部 立 榮 山之瀬古町 塔吉西裏 乙 古八岩 幡田 河町町

松 下 屋 町 町 物 花 六

六九七 八五一 二三五

松 下 富 吉 山 本 松 次 郎 松 田 安 太 郎 奥 田 六 右 衛 門 伊 藤 嘉 藏 河 邊 清 左 衛 門 藤 村 隆 貫 角 谷 繁 吉 伊 藤 一 夫

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 履

は

物履ノ部

ア イ ア ア エ ア ア ア エ イ イ ウ ア

伊 分 西 千 〃 大 〃 京 萬 下 〃 餘 上 豫 部 堀 歳 門 口 部 慶 濱 町 町 端 町 町 町 田 町 町

丁 字 屋 種 屋 萬 佐 神 戶 屋 伊 藤 商 店

八二〇 一三六七 四三二 一三三二 一三三九 一三三三 四七二

角 分 田 今 北 加 野 長 平 伊 瀧 伊 瀬 谷 部 中 高 村 藤 田 崎 松 藤 川 藤 川 末 武 耕 助 泰 次 爲 吉 佐 爲 三 源 留 三 彌 三 吉 憲 一 七 郎 吉 藏 吉 一 郎 八 郎 よ

〃(毛糸及洋裁生地)

伊 豫 町

九五九

館 大 和 屋 商 店

ペンキ塗請負(塗料)

イ ア ア イ
出 乙 丸 新
口 部 南 之内 立
町 町 町 本 町

一三六七
六〇三
八九二
一〇六二

松村嘉十郎
繪武田商店
柏原治三郎
稻垣三郎
清水正之

ノ部

度量衡器計量器

計量器 (農具、蠶具) ウ 常磐町 紀平蠶具店 九二五
計量器 (時計、眼鏡、貴金屬) ウ 京口町 村山眼鏡店 七二五
(藥品、賣藥) ア 北町 高木屋 一五二一
度量衡器 (計量器、藥品、賣藥) エ 分 部 町 五 六

紀平基義
村山佐助
橋本小兵衛
分部寅吉

陶磁器

陶磁器 (煉瓦、石灰、セメント、土管) イ 東上濱町 眞見屋 七二八 五〇八

加藤新五郎
川口文右衛門

セメント、煉瓦、石灰、煉瓦、セメント、土管

ウ ア ウ
大門町 片岡屋本店 一五〇六
分 部 町 九五八
岩 田 町 四一五
角 與

下岡新次郎
藤田八百助
清水與左衛門
堀場斧次郎

貴金屬、眼鏡、計量器

時計

貴金屬、眼鏡 (眼鏡、蓄音器)

ア ア ア ウ ア
上濱町 七二五
京口町 九六
立 町 一六五八
北 町 九一
大門町 一三八九
分 部 町 八〇九
伊 豫 町 八四五
岩 田 町 四九一

太田進
村山佐助
前田清夫
庄村一郎
西川巳三郎
淺生か太郎
渡邊佐太郎
林邊量藏
宮崎信彌
別所政男
高林乙吉

〃 (古着、金銭貸付) イ 八 町 新 屋 一五二五 堀 傳 之 進

籬 細 工 品

〃 〃 ア ア 地 頭 領 町 伊 豫 町

塗 料

〃 〃 塗 料 (ペンキ) (船 具) イ ウ イ 新 立 町 築 地 町 出 口 塩 元

一三六七 四四六 一〇六二 松 村 嘉 十 郎 鹽 田 元 吉 清 水 正 之

刀 劍

〃 刀 劍 (磨 師) ア ア 北 京 町 口 町

豆 腐

豆 腐 ア 立 合 町

中 村 佐 太 郎 樋 口 弘

松 井 嘉 藏

蓄 音 器

蓄 音 機 イ 京 口 町 大 門 町 伊 豫 町 甲 子 堂

七二五 一三八九 四九一 村 山 力 之 助 渡 邊 佐 太 郎 別 所 政 男

茶、茶 器

茶 (茶 器) ア 丸 之 内 本 町 伊 豫 町 松 竹 園 一 茶 園 伊 豫 町 松 竹 園 一 茶 園

西 村 朋 一 山 本 兵 之 助 龜 井 利 兵 衛 矢 原 か も の

旅 館、料 理

旅 館 (料 理) ア 上 濱 町 下 部 田 松 坂 屋 一 八

伊 藤 フ 兵 衛 後 藤 市 兵 衛

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 料 〃 〃 〃 〃 〃

(旅) 館 理 館 (旅)

ア イ イ エ イ ア ウ ア ア ア ア ア ア エ

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 乙 寺 〃 〃 〃 〃 入

江 町 部 町

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|---|
| 生 | 大 | 入 | 岡 | 竹 | 玉 | 和 | 杉 | 辰 | 水 | ま | 双 | ぼ | 美 | 佐 |
| 月 | 観 | 江 | 亭 | 川 | 喜 | 歌 | 本 | 屋 | 月 | き | 葉 | た | 鶴 | 里 |
| 一〇六 | 二二九 | 九四四 | 一三五 | 四六七 | 一六九 | 一三五 | 一〇四 | 二四二 | 五八 | 一〇九 | 九九七 | 四二六 | 一八六 | |

竹 中 大 村 岡 芝 長 森 池 杉 松 水 加 平 澤 伊 西 西
 大 林 甚 原 谷 下 田 本 尾 沼 藤 田 口 藤 村
 観 榮 正 川 せ 田 本 尾 沼 藤 田 口 藤 村
 亭 藏 助 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男
 亭 藏 助 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男

〃 〃 〃 料 旅 〃 料 旅 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

理 館 理 館

ア ア ア ア ウ ウ ア イ イ イ ウ ウ イ ウ ア ア イ

〃 堀 〃 大 宿 中 〃 新 西 京 〃 〃 西 萬 榮 〃 〃
 〃 川 〃 瀬 屋 之 〃 東 來 口
 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 榮 | 三 | 櫻 | 老 | 古 | 内 | 加 | 田 | 待 | 平 | 林 | 敷 | 三 | 魚 | 松 | む |
| 屋 | 德 | 水 | 梅 | 軒 | 喜 | 伊 | 瀬 | 月 | 堂 | 家 | 島 | 升 | 庄 | 屋 | ほ |
| 七二二 | 一三九八 | 一六七三 | 一三六九 | 二二二 | 二二二 | 二二〇 | 八二二 | 六八一 | 二五二 | 二二八 | 七二五 | 八二四 | 七八六 | 四三二 | 一三九二 |

青 山 坂 岡 岡 加 若 齊 田 小 山 林 森 竹 白 小 加
 山 井 村 藤 林 藤 名 宮 本 川 田 井 川 藤 川 藤 加
 得 次 次 安 俊 源 喜 伊 瀬 音 秀 兵 榮 庄 井 川 藤 加
 郎 郎 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次
 郎 郎 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次 次

桶

わ 在

ノ 桶 ノ

部 ア 部

常磐町

ア ア イ イ ア ア イ ア イ ア イ

古藤 河方 藤枝町

す安可開 月旭
し濃祝進 花樓
三館樓樓

一四三六

二二九〇 六五七 五一一 一五二五 四四二 九七五

市川梅三郎

橋野三中中中谷大大伊青
爪田島島村澤西西藤木
み玉次き純次淳一武嘉
わ壽登郎く治郎一翁造藏

料旅料旅 旅料 旅料

(旅) (料) (旅)

館 理館理 館理 館

ア ア ア イ ウ ア エ ア イ ウ ア ア イ ア イ ア

西阿漕町 出岩伊 丸築 極 〃 〃 〃 〃

口町 田豫 葛 之内地 樂

長阪 藤角 つ中松 川濱濱海聽得魚ひ
喜下 屋喜 喜や 津軒 金宗旅館作萩亭館月留ど
亭屋屋喜喜や軒金館作萩亭館月留ど

四八九 二二八八 九七七 七三六 一三三八 三四二 四〇九 七四九 一七六七 六四七 六一五 一五〇三 三九七 七二八 一一八七

渡阪加田高森中松川郡伊今 巖松竹高
下藤邊山 田島北 藤高聽崎尾村崎
小い一之 豐欣ぬ 重正ゆ潮暉 普光か
昇そま雄助一鷹也い由一う館子郎郎ん

紙
紙 (砂糖、糖) 五七六
紙 (砂糖、墨表) 五八
紙 (文房具) 一二二九
紙 (砂糖、糖) 一三九七
紙 (文房具) 一三九七
紙 (文房具) 一六九
紙 (砂糖、糖) 七〇七
紙 (砂糖、糖) 六二四
紙 (煙草、文房具) 一四一六

伊藤 安之助
富島 謙三
村田 眞一
藤田 四郎兵衛
三藤 重男
後藤 吉兵衛
小野 甚三郎
佐野 嘉吉
平井 嘉吉

紙

現物賣買(株有價證券式)
エウエ 京口町 岡三
ウエウ 中三番町
ウ 丸之内本町

四一七六五三
三〇六二五三
一七七八一八

加藤 清治
岡村 又太郎
柴田 定次郎
三重 商事株式會社
西川 政之助

綿

か

株式、有價證券

綿 (蚊帳)
新立町 大瀬古町 丸之内緑町
西新町 綿關
上辨財内 白塚屋
八 町
垂 水
ア イ ア ア ウ イ ア ア
丸之内鯉堀 二
一二三〇
二二七一
一七七一
六四四
三四九

辻口 幸三 德三郎
樋口 藤藏
安井 藤藏
加藤 萬次郎
小野 萬次郎
後藤 宗九郎
大森 平九郎
岸野 照雄
加藤 彌助
會根 覺次郎
德田 貫一

| | | | | |
|-----|--------|---------|---|-----|
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |
| 家具類 | ウイイイアイ | イイイアエエア | 蒲 | 家具類 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|
| 海産物 | イ | エ | イ | ア | ア | ア | オ | エ | ウ | エ | イ | ア | イ | 金物(佛具) |
| 海産物 | イ | エ | イ | ア | ア | ア | オ | エ | ウ | エ | イ | ア | イ | 金物(佛具) |
| 海産物 | イ | エ | イ | ア | ア | ア | オ | エ | ウ | エ | イ | ア | イ | 金物(佛具) |
| 海産物 | イ | エ | イ | ア | ア | ア | オ | エ | ウ | エ | イ | ア | イ | 金物(佛具) |
| 海産物 | イ | エ | イ | ア | ア | ア | オ | エ | ウ | エ | イ | ア | イ | 金物(佛具) |

〃 菓 〃 餅 〃 〃 〃 〃 菓 冷 菓 〃 菓 煎 〃 〃 〃

子 (食料品) 子 菓 子 ン 餅 子

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|----|------|-----|----|-----|-----|------|---|---|---|
| エ | ア | ア | ア | イ | ア | ウ | ウ | ア | ア | ウ | ア | ア | ウ | イ | イ | イ |
| 分 | 片 | 〃 | 千 | 澤 | 藏 | 地 | 〃 | 中 | 〃 | 大 | 立 | 北 | 立 | 京 | 常 | 釜 |
| 部 | 濱 | | 歳 | 之 | 頭 | 〃 | 之 | 之 | 〃 | 門 | | | | 口 | 磐 | 屋 |
| 町 | 町 | | 町 | 上 | 領 | | 番 | 町 | | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 |
| 清 | | | 玉 | 福 | | 前 | 雲 | 三 | 富 | 九 | 富 | 松 | 九 | | | |
| 觀 | | | 吉 | 壽 | | 田 | 出 | 華 | 久 | 善 | 貴 | ケ | 華 | | | |
| 堂 | | | | 軒 | | 屋 | 屋 | 堂 | 屋 | 善 | 堂 | 枝 | 堂 | | | |
| 一六七 | 九一三 | 一二七三 | 八七九 | 八七三 | 一〇〇四 | 四五二 | 六四 | 一六三五 | 七六八 | 七六 | 四三三 | 一一六 | 一五七七 | | | |
| 前 | 藤 | 草 | 加 | 倉 | 鶴 | 土 | 岩 | 大 | 大 | 阿 | 河 | 寺 | 伊 | 内 | 向 | 中 |
| 久 | 深 | 藤 | 田 | 野 | 屋 | 脇 | 西 | 澤 | 部 | 戶 | 家 | 藤 | 藤 | 井 | 谷 | |
| 川 | 利 | い | 俊 | 太 | 好 | 利 | | 重 | 真 | 芳 | 邦 | 銀 | 恒 | 一 | 義 | |
| 忠 | 吉 | し | 造 | 造 | 三 | 吉 | 順 | 郎 | 一 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 太 | |
| 一 | 吉 | | | | | | | | | | | | | | | |

〃 菓 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

子 菓 子 類

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アイ | ア | ア | ア | イ | イ | エ | ア | ア | ア | イ | ア | ア | | |
| 萬 | 萬 | 中 | 古 | 阿 | 伊 | 分 | 中 | 丸 | 丸 | 山 | 東 | 西 | | |
| 萬 | 中 | 茶 | 〃 | 〃 | 〃 | 部 | 新 | 之 | 之 | 之 | 〃 | 〃 | | |
| 町 | 萬 | 屋 | 河 | 漕 | 豫 | 町 | 町 | 内 | 内 | 瀨 | 〃 | 〃 | | |
| 橋 | 川 | 糖 | | | | | | 本 | 本 | 古 | 町 | 町 | | |
| 分 | 糖 | 屋 | | | | | | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | | |
| 堂 | 屋 | | | | | | | | | | | | | |
| 一五八 | 八七八 | | | | | | | | | | | | | |
| 六三六 | | | | | | | | | | | | | | |
| 前 | 澁 | 大 | 岡 | 蟻 | 小 | 大 | 眞 | 野 | 森 | 居 | 長 | 樋 | 河 | 棕 |
| 川 | 谷 | 森 | 田 | 戸 | 野 | 矢 | 砂 | 田 | 六 | 崎 | 谷 | 口 | 合 | 下 |
| 利 | 一 | 捨 | 春 | 庄 | 藤 | 松 | 淺 | 次 | 次 | 由 | 川 | 喜 | 益 | 嘉 |
| 郎 | 郎 | 五 | 三 | 次 | 市 | 次 | 生 | 榮 | 郎 | 雄 | 象 | 藏 | 一 | 平 |

株式會社明治商店三重販賣所

活 〃 〃 紙 〃 〃 皮 〃 〃 〃 皮 革

字 活 函 紙 製 品 (靴中敷) (米穀) (靴中敷) 皮

イ ア イ ア ア ア エ イ ウ カ イ

丸之内櫻町 柳 丸之内本丸山 釜屋町 八伊豫町 地頭領町 常磐町 〃 相生町 相部田 下 錢屋

中之番町 馬具屋

六四三 九〇七 一四九六 六一三 八七 八三四 五二九 五四九

波 伊 村 深 武 桑 橋 河 増 藤 山
田 藤 瀬 野 田 名 本 邊 田 本 本
友 く 收 豊 光 彌 正 房 勝 太 恒
吉 め 藏 郎 治 吉 三 吉 藏 吉 郎

樂 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 菓 パ 〃 〃 〃 菓 煎

器 樂 子 ン 子 餅

ウ イ イ イ ア ア イ ア ア ア ア イ イ

大 〃 八 綿 八 出 〃 伊 丸 立 〃 〃 九 〃 〃
門 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
町 町 内 町 口 町 町 町 町 町 町 町 町

三 大 神 雲 木 中
味 岡 濃 出 村 勢
初 屋 屋 屋 屋 堂

五 一 一 七 五 一 六 三 三
五 三 二 七 八 二 三 三
六 二 三 三 三 三 三

岩 岡 伊 北 下 船 刀 土 森 杉 鶉 小 野 宮
田 藤 川 津 木 根 屋 本 野 笠 呂 田
仁 長 秀 源 武 三 重 き 本 野 野 原 仙 數
兵 治 次 右 之 重 み 補 治 三 久 二 造
衛 郎 郎 門 吉 雄 助 大 子 市 郎 一 郎

| | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| カ フ エ カ フ エ カ フ エ | 玩 具 玩 具 | 蒲 板 銚 板 | 蚊 帳 帳 | 洋 服 部 | 蚊 帳 帳 | カ フ エ カ フ エ | 玩 具 玩 具 |
| ア ア ア ア ア ア | イ 東 町 | ア 柳 山 | ア 丸 之内 緑 町 | ア 下 部 田 | ア 中 茶 屋 町 | ア ア ア ア ア ア | イ 東 町 |
| サ ロン 銀 座 マ ス コ ツ ト | 一 五 七 六 | 堀 江 吉 右 衛 門 | 安 井 藤 藏 | 加 藤 淺 次 郎 | 野 田 甚 藏 | ア ア ア ア ア ア | イ 東 町 |
| 一 六 六 六 (乙) | 島 地 松 之 助 | 野 田 は つ ゑ | | | | 一 五 九 五 | 一 五 七 六 |
| | | 榑 原 爲 造 | | | | 一 二 六 六 | 一 五 七 六 |

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|----------------------------|-----------------------|--------------------------------------|----------------------------|-----------------------|--------------------------------------|----------------------------|-----------------------|
| 瓦 斯 供 給 瓦 | 果 物 果 物 | 硝 子 硝 子 | 瓦 斯 供 給 瓦 | 果 物 果 物 | 硝 子 硝 子 | 瓦 斯 供 給 瓦 | 果 物 果 物 | 硝 子 硝 子 |
| ウ イ ア ア ア ア | ウ イ ア ア ア ア | イ 中 茶 屋 町 | ウ イ ア ア ア ア | ウ イ ア ア ア ア | イ 中 茶 屋 町 | ウ イ ア ア ア ア | ウ イ ア ア ア ア | イ 中 茶 屋 町 |
| 合 同 瓦 斯 株 式 會 社 | 赤 尾 彦 太 郎 | 小 黒 巳 作 | 合 同 瓦 斯 株 式 會 社 | 赤 尾 彦 太 郎 | 小 黒 巳 作 | 合 同 瓦 斯 株 式 會 社 | 赤 尾 彦 太 郎 | 小 黒 巳 作 |
| 四 三 七 | 三 八 八 | 八 八 三 | 四 三 七 | 三 八 八 | 八 八 三 | 四 三 七 | 三 八 八 | 八 八 三 |
| 西 出 政 次 郎 | 河 村 孝 次 郎 | 渡 邊 政 治 | 西 出 政 次 郎 | 河 村 孝 次 郎 | 渡 邊 政 治 | 西 出 政 次 郎 | 河 村 孝 次 郎 | 渡 邊 政 治 |
| | 杉 田 保 吉 | 野 田 啓 三 | | 杉 田 保 吉 | 野 田 啓 三 | | 杉 田 保 吉 | 野 田 啓 三 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|---|---|----------|---|------|------|------|-----|-----|----|-----|------|
| 揚子 | ア | 下 | 辨 | 財 | 町 | 錦 | 盛 | 社 | 五四四 | 谷 | 本 | 捨 | 松 |
| 揚子 | ウ | ア | ウ | ア | ア | ア | ア | ウ | イ | イ | イ | ア | イ |
| | 八 | 岩 | 田 | 伊 | 分 | 乙 | 地 | 大 | 大 | 立 | 常 | 上 | 濱 |
| | 町 | 町 | 町 | 豫 | 部 | 部 | 頭 | 門 | 門 | 門 | 磐 | 濱 | 町 |
| | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 部 | 領 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 |
| | 八三七 | | | 四二九 | | 一〇八九 | 一〇一七 | 一六五三 | 八一 | 一五二 | 四一 | 六六一 | 一四九七 |
| | 岸 | 下 | 高 | 會社 梅本 | 則 | 高 | 森 | 中 | 田 | 鈴 | 八 | 露 | 谷 |
| | 江 | 津 | 松 | 本 | 武 | 山 | 田 | 西 | 所 | 木 | 田 | 白 | 口 |
| | 一 | 友 | 利 | 惣 | 虎 | 郁 | 要 | 國 | 好 | 利 | 孫 | 銀 | 謙 |
| | 雄 | 次 | 三 | 兵衛 | 之 | 太 | 人 | 三 | 造 | 雄 | 次 | 屋 | 吉 |
| | 雄 | 郎 | 郎 | 商店 | 助 | 郎 | 人 | 郎 | 造 | 雄 | 郎 | 洋 | 智 |
| | 雄 | 郎 | 郎 | 商店 | 助 | 郎 | 人 | 郎 | 造 | 雄 | 郎 | 物 | 智 |
| | 雄 | 郎 | 郎 | 商店 | 助 | 郎 | 人 | 郎 | 造 | 雄 | 郎 | 店 | 智 |

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|------|------|---|---|---|---|------|-----|----|-----|------|------|
| (洋品雜貨) | ウ | イ | ア | ア | ア | ア | ア | ア | イ | イ | イ | ア | イ |
| | 伊 | 伊 | 丸 | 分 | 築 | 乙 | 藏 | 宿 | 大 | 立 | 西 | 常 | 釜 |
| | 豫 | 樓 | 之内 | 部 | 地 | | | 屋 | 門 | | | 磐 | 屋 |
| | 町 | 町 | 本 | 町 | 町 | 部 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 |
| | | | | | | | | 一 | | | | | |
| | | | | | | | | 志 | | | | | |
| | | | | | | | | 屋 | | | | | |
| | 四二九 | 一〇三七 | 一三〇七 | | | | | 一六八一 | 四一六 | 四一 | 三七七 | 一四九七 | 一三二七 |
| 會社 梅本 | 松 | 山 | 山 | 多 | 北 | 鹽 | 伊 | 山 | 萩 | 饅 | 八 | 谷 | 岩 |
| 本 | 本 | 崎 | 中 | 賀 | 口 | 口 | 藤 | 本 | 原 | 松 | 田 | 川 | 口 |
| 惣 | 繁 | 濱 | 幸 | 淺 | 與 | 堅 | 音 | 惠 | 三 | 田 | 孫 | 宗 | 謙 |
| 兵衛 | 次 | 藏 | 雄 | 一 | 兵 | 藏 | 次 | 吉 | 次 | 商 | 次 | 太 | 三 |
| 商店 | 郎 | 藏 | 雄 | 一 | 衛 | 藏 | 郎 | 郎 | 郎 | 店 | 郎 | 郎 | 郎 |

東子(製造) 東子 佐伯町

九ノ部

煉瓦 (陶磁器、石灰) 煉瓦 上濱町 かも新

煉瓦 (セメント) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (金物、土管) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (建築物、材料) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (木材、石灰) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (建築材料) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (陶磁器、鹽) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (石灰、セメント) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (石、セメント) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (煉瓦) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (煉瓦) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (煉瓦) 煉瓦 乙部 倉清

煉瓦 (煉瓦) 煉瓦 乙部 倉清

石井惣次郎

加藤新五郎

倉田半七郎

國分共同合資會社

清水與左衛門

藤田八百助

伊藤末吉

大濱三鱗株式會社

岡田みそ

豊田瀧三郎

七ノ部

伊勢表草履表 伊勢表草履表

倉庫業 倉庫業

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

染物 染物

山本實

松原一巳

津市倉庫株式會社

高橋芳太郎

奧田儀三郎

眞野忠雄

近藤安利吉

加藤安次郎

渡邊忠七郎

山田庄次郎

造花

ア 山口
エ 京口町 花清
イ 丸之内本町 花よし
イ 泉町 花敏
七四二
四四二
四九六
山石鈴
田嶋木
敏太
男郎

釣道具

イ 岩田町
ア 船頭町
青山初次郎
阪井友藏

仲立

仲立(貸別荘) 藤方
南御殿場遊園地土地株式會社

ラ子才機械

ウ 京口町 清友會 九八〇
ウ 萬町 九三七
ア 地頭領町
イ 丸之内本町
中尾一郎
村上清一郎
中島儀一郎

麥粉

上濱町 一五
分部町 七三七
西阿漕町 七五
鈴木愛之助 會社 伊藤商店

無盡

無盡藏町 五四一
共融無盡株式會社

魚市場

魚市場

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 電氣器具 | 電燈、電機 | 廣告取次 | 廣告取次 | 菊粉 | 菊粉 | 黑板 | 香水(漁網) |
| ウ | ウ | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ |
| ア | ア | ア | ア | ア | ア | ア | ア |
| イ | イ | イ | イ | イ | イ | イ | イ |
| 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 |
| 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 | 清友舎 |
| 九三七 | 九三七 | 九三七 | 九三七 | 九三七 | 九三七 | 九三七 | 九三七 |
| 松岡 | 松岡 | 松岡 | 松岡 | 松岡 | 松岡 | 松岡 | 松岡 |
| 堀江 | 堀江 | 堀江 | 堀江 | 堀江 | 堀江 | 堀江 | 堀江 |
| 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 | 中島儀一郎 |

| | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 小島 | 水製 | 糍味噲(製造) | 糍味噲(製造) | 骨董(書畫) | 骨董(書畫) |
| ア | イ | イ | イ | イ | イ |
| 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 | 丸之内本町 |
| 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 |
| 辰 | 辰 | 辰 | 辰 | 辰 | 辰 |
| 九三二 | 九三二 | 九三二 | 九三二 | 九三二 | 九三二 |
| 草川源藏 | 草川源藏 | 草川源藏 | 草川源藏 | 草川源藏 | 草川源藏 |
| 津冷蔵製氷株式會社 | 津冷蔵製氷株式會社 | 津冷蔵製氷株式會社 | 津冷蔵製氷株式會社 | 津冷蔵製氷株式會社 | 津冷蔵製氷株式會社 |
| 中村與次右衛門 | 中村與次右衛門 | 中村與次右衛門 | 中村與次右衛門 | 中村與次右衛門 | 中村與次右衛門 |
| 伊藤 | 伊藤 | 伊藤 | 伊藤 | 伊藤 | 伊藤 |
| 平田 | 平田 | 平田 | 平田 | 平田 | 平田 |
| 久世 | 久世 | 久世 | 久世 | 久世 | 久世 |
| 平井 | 平井 | 平井 | 平井 | 平井 | 平井 |
| 久住 | 久住 | 久住 | 久住 | 久住 | 久住 |
| 水谷 | 水谷 | 水谷 | 水谷 | 水谷 | 水谷 |
| 石太郎 | 石太郎 | 石太郎 | 石太郎 | 石太郎 | 石太郎 |

| | | | | | | | | | |
|----|----------|---|---|----|---|---|---|---|----|
| 館 | ノ | 手 | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ |
| (製 | あ | | | | | | | | |
| 造) | 部 | 袋 | 手 | (織 | | | | | (鑄 |
| ア | | ア | オ | キ | ア | ウ | ウ | ウ | ア |
| 萬 | | 立 | 古 | 藤 | 神 | ノ | ノ | 古 | 岩 |
| | | 合 | 慶 | | | | | 河 | 田 |
| 町 | | 町 | 町 | 方 | 納 | | | 裏 | 柳 |

| | | | | | | | | | |
|--|--|-----|-----|-------|--|--|--|------|-----|
| | | | | 瀬木鐵工所 | | | | 乾鐵工所 | |
| | | 一五三 | 五六〇 | 一五九 | | | | 八九三 | 二九六 |
| | | 三三二 | | 四七七 | | | | 九二八 | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 望 | 内 | 長 | 近 | 野 | 川 | 村 | 森 | 乾 | 中 | 松 | 水 |
| 月 | 藤 | 良 | 澤 | 島 | 合 | 上 | 謹 | 恒 | 西 | 澤 | 谷 |
| 國 | 春 | 直 | 豊 | 善 | 六 | 清 | 三 | 久 | 善 | 清 | |
| 造 | 吉 | 吉 | 三 | 助 | 郎 | 吾 | 郎 | 次 | 吉 | 一 | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------|
| ウ | ア | ア | ア | イ | エ | ア | ア | ノ | イ | ア | イ | ア | 鐵 | 電燈、電力、電氣器具 |
| 南 | 西 | 丸 | 築 | 乙 | 新 | 山 | 中 | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ | 工 | 燈 |
| 堀 | 新 | 之 | 地 | 新 | 立 | 之 | 茶 | 下 | ノ | ノ | ノ | 上 | 鐵 | 器 |
| 端 | 堀 | 堀 | 町 | 部 | 町 | 古 | 屋 | 部 | | | | 濱 | 具 | 具 |
| | | | | | | 町 | 町 | 田 | | | | 町 | 工 | 具 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一三三 | 一三二 | 一七八 | 一七二 | 四五九 | 一三六 | 八二六 | 二九四 | 九四七 | 四七五 | 二五七 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------|
| 石 | 川 | 村 | 喜 | 鳥 | 鈴 | 大 | 岡 | 稻 | 坂 | 小 | 青 | 佐 | 森 | 東邦電力株式會社津支店 |
| 川 | 合 | 木 | 田 | 羽 | 木 | 西 | 本 | 垣 | 本 | 野 | 山 | 藤 | 田 | 力 |
| 龜 | 光 | 新 | 德 | 幸 | 松 | 甚 | 伊 | 茂 | | 寺 | 總 | 富 | く | 式 |
| 吉 | 五 | 十 | 松 | 吉 | 次 | 三 | 郎 | 一 | 昭 | 米 | 次 | 次 | 支 | 會 |
| | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 助 | 郎 | 郎 | 次 | 郎 | 郎 | 店 | 社 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-----|----------|------|---|---|-----|---|---|------|------|---|
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 酒 | 〃 | 〃 |
| | | (味噌、溜醬油) | | | | | | | (製造) | (肥料) | |
| ア | エ | ア | イ | ア | ア | イ | ア | ア | ウ | ウ | イ |
| 藏 | 南 | 新 | 〃 | 東 | 新 | 西 | 相 | 榮 | 下 | 〃 | 上 |
| | 濱 | 東 | | | 立 | | 生 | | 部 | | 濱 |
| 町 | 町 | 町 | | 町 | 町 | 町 | 町 | 町 | 田 | | 町 |
| | 澤 | 笠 | 紙 | | | | | | | | |
| | 屋 | 源 | 藤 | | | | | | | | |
| | 二四一 | 三二九 | 一七三〇 | | | 七三三 | | | 一四五 | | |
| 新 | 藤 | 山 | 鯨 | 丸 | 柴 | 安 | 廣 | 渥 | 柴 | 米 | 青 |
| 堂 | 澤 | 本 | 丸 | 山 | 田 | 藤 | 部 | 見 | 田 | 倉 | 山 |
| 銀 | 茂 | 右 | 山 | 山 | 田 | 竹 | ふ | 哲 | 軍 | 藤 | 久 |
| 郎 | 衛 | 源 | 文 | 文 | べ | 男 | さ | 三 | 一 | 松 | 四 |
| | 門 | 七 | 治 | 治 | ん | 郎 | | | | | 郎 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------|-----------|---------|--|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 油 | 油 | 〃 | 油 | | 漁 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 類 | (麥粉、綿糸、砂糖) | (紙、砂糖、煙草) | 類 (化粧品) | | 網 (香水) | | | | | | | | |
| ウ | イ | ウ | | | 五 | | | | | | | | |
| 岩 | 分 | 西 | 萬 | | 軒 | | | | | | | | |
| 田 | 部 | | | | 町 | | | | | | | | |
| 町 | 町 | 町 | 町 | | | | | | | | | | |
| | | 萬 | 梅 | | | | | | | | | | |
| | | 幸 | 屋 | | | | | | | | | | |
| 一 | 五 | 五 | 四 | | 一 | 八 | 七 | 二 | | | | | |
| 四 | 四 | 三 | 六 | | 八 | 七 | 五 | 七 | | | | | |
| 川 | 館 | 高 | 石 | | 內 | 外 | 製 | 網 | 株 | 式 | 會 | 社 | |
| 北 | 太 | 倉 | 丸 | | | | | | | | | | |
| 佐 | 田 | 幸 | 清 | | | | | | | | | | |
| 平 | 商 | 兵 | 次 | | | | | | | | | | |
| 治 | 店 | 衛 | 郎 | | | | | | | | | | |

砂糖 (麥粉) 上濱町 海老屋 一五
 砂糖 (紙) 餘慶町 海老屋 五七六
 砂糖 (壘表、紙) 中茶屋町 富田屋 五八
 砂糖 (煙草雜貨) 西中町 萬幸 四三六

阿漕町酒善 一五〇
 藤枝町 一〇九七
 柳山町 一〇七一
 八町 二八六
 八町 三六八
 古河 二九四

小野松次郎 小柴善三 奧野德太郎 池田利雄 内山喜右衛門 淺野右衛門 谷口友藏 倉田文平 古谷嘉市 平井長雄 葛井勘兵衛

砂 糖

新炭、飲食) 丸之内泉町 樋口支店 四六八
 乙部 一八三〇
 新堀端町 本町 一三三七
 中 綠町
 西 伊豫木 七五八
 伊 田角 四八八
 岩 田角 一六八
 綿 内 十一屋 七七七
 出 口 一六四
 上辨財町 一二四二

飯田國松 若林善右衛門 近澤文雄 小原富三郎 中尾 栗本忠三郎 前田三太郎 山本太兵衛 山本仙右衛門商店 藤崎正司 奧田文一 由井守一 江崎貞次 村田德次郎 小田松三郎

蠶具(農具、計量器)

蠶

ウ 常 磐 町

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウ | ア | エ | イ | エ | イ | ウ | ア | イ | ア | イ | ウ |
| 神 | 古 | 船 | 八 | 上 | 柳 | 西 | 出 | 伊 | 伊 | 伊 | 伊 |
| | | 頭 | 幡 | 辨 | 阿 | 阿 | 口 | 豫 | 泉 | 鯉 | 本 |
| 納 | 河 | 町 | 町 | 町 | 山 | 町 | 口 | 町 | 町 | 堀 | 丸 |

具

九二五

| | | | | | | | | | |
|-----|-------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|
| 九三三 | 四九三〇一 | 二一六七 | 七八一 | 六二八 | 九六八 | 一〇一四 | 一五五〇 | 四四〇 | 一七〇 |
|-----|-------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|

紀 平 基 義

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 谷 | 別 | 野 | 國 | 宇 | 北 | 奥 | 樋 | 國 | 矢 | 岡 | 福 | 谷 | 田 |
| 口 | 所 | 田 | 分 | 佐 | 村 | 山 | 口 | 分 | 野 | 田 | 岡 | 口 | 中 |
| 榮 | 未 | 光 | 市 | 見 | 長 | 忠 | 定 | 靖 | 十 | 耕 | 健 | 半 | 章 |
| 藏 | 郎 | 成 | 郎 | 正 | 次 | 七 | 郎 | 三 | 郎 | 一 | 藏 | 内 | 介 |

材 (建築材料)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| イ | ア | ウ | ア | ウ |
| 丸 | 乙 | 堀 | 常 | 下 |
| 之 | 内 | 川 | 磐 | 部 |
| 内 | 本 | 部 | 町 | 田 |
| 町 | 部 | 町 | 町 | 町 |

木

材

木

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 二八四 | 三三六 | 一四三 | 五四〇 | 三三〇 |
|-----|-----|-----|-----|-----|

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 加 | 國 | 藤 | 八 | 落 | 大 |
| 藤 | 分 | 波 | 田 | 合 | 森 |
| 末 | 共 | 巳 | 代 | 政 | 吉 |
| 吉 | 同 | 治 | 進 | 吉 | 衛 |
| | 資 | 會 | 社 | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | イ | ア | イ | ア | ア | イ | イ |
| 八 | 八 | 岩 | 分 | 分 | 藏 | 地 | 京 |
| 町 | 町 | 田 | 部 | 部 | 町 | 頭 | 口 |
| | | 町 | 町 | 町 | 町 | 領 | 町 |
| | | 小 | | | 米 | | |
| | | 野 | | | 四 | | |
| | | 長 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-------|------|------|-----|
| 九三〇 | 六二四 | 七七四 | 七七三五六 | 一三九七 | 一四二七 | 六二二 |
|-----|-----|-----|-------|------|------|-----|

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 井 | 藤 | 佐 | 小 | 大 | 露 | 藤 | 辻 | 光 |
| 早 | 田 | 野 | 野 | 川 | 太 | 田 | 岡 | 田 |
| 卓 | 安 | 甚 | 金 | 兵 | 田 | 四 | 真 | 庄 |
| 生 | 兵 | 三 | 衛 | 衛 | 商 | 郎 | 六 | 右 |
| | 衛 | 郎 | 店 | 衛 | 店 | 兵 | 門 | 衛 |
| | よ | 郎 | 店 | 衛 | 店 | 衛 | | 門 |

晒 (加工) 晒
 榎ノ下

銀行部
 銀行業

萬 町
 丸之内 鰯堀 町
 大 門 町
 京 口 町
 立 町
 大 門 町



八五〇
 六五七九二
 三五九
 三五二一
 七四三〇
 三八二五
 八三五七
 一三三
 九七三
 八〇
 一〇六
 九二一
 八六二
 二五九

伊勢晒工場
 株式會社 日本勸業銀行津支店
 株式會社 百五銀行
 株式會社 三重共同貯蓄銀行
 株式會社 日本貯蓄銀行津支店
 株式會社 勢南銀行津支店
 株式會社 愛知銀行津支店
 株式會社 百五銀行大門町支店

金錢貸付

中之番町



三四一

株式會社 不動貯金銀行津支店

金錢貸付(荒物、雜貨)

エ 常磐 町

五三四
 四九七

田中三七郎
 谷口謙吉

(洋服)

イ 常磐 町

一七五二

西岡又四郎

(質屋)

イ 新中 町

一三五二

宮本謙郎

(保險代理)

イ 丸之内 鰯堀 町

五九六

相互商事株式會社

(荒物雜貨)

イ 岩田 町

一六四七

栗田五稜

(古着、時計)

イ 八田 町

一五二五

下津熊次郎

貴金屬

貴金屬(時計、眼鏡)

イ 大門口 町

七二五
 九一

村山佐助

ウ (眼鏡、時計、蓄音機)
ウ (小間物、化粧品)
イ (眼鏡、時計)
ア (細工)
ア (地金)
イ (眼鏡、蓄音機、時計)

ウ 地頭領町 甲子堂 一三八九
イ 分本部町 九五五
ア 丸之内本町 九七六
ア 丸之内本町 八〇九
イ 伊豫緑町 八四五

ウ 伊豫緑町 四九一
ア 北門町 富士 一五八〇

イ 北門町 富士 一五八〇
イ 丸之内緑町 一〇四四

イ 丸之内緑町 一〇四四
イ 丸之内緑町 九二八

イ 丸之内緑町 九二八
イ 丸之内緑町 五五三

イ 丸之内緑町 五五三
イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

イ 丸之内緑町 坂口茂

渡邊 佐太郎

伊藤 健次郎

林 量藏

宮崎 脩吾

澤下 条助

別所 政男

岡本 新太郎

長井 とら郎

加藤 吉兵衛

鈴木 喜七郎

森 謹三郎

坂口茂

谷川 新次郎

萩野 たか郎

加藤 七次郎

關西製絲株式會社

岸和田紡績株式會社津工場

富田 金七

大森織物合名會社

町谷 源藏

株式會社丸山糸店

會社 太田商店

會社 川喜田商店

株式會社 東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

東洋紡績株式會社津工場

手藝材料
 (毛糸、洋裁生地)
 飼料
 醬油、味噌製造

イ 立町
 ア 西來寺町
 ア 分部町
 エ 新魚町
 エ 西ノ口出屋敷
 エ 築地町
 ウ 上濱町
 ウ 東濱町
 ウ 南濱町
 エ 極樂町

一六七五
 六六七
 一五五

西田平松商店
 田中林助
 川喜田商會

西田義一
 濱田商會
 矢田金十郎
 杉山義助

橋本清助
 阿部喜兵衛
 丸山文一
 藤澤茂右衛門
 後藤仁兵衛

一三三
 四八六
 二三一
 二四一
 一三〇

綿布製造
 眼鏡
 磨砂
 磨砂

ウ 京町
 ウ 大門口町
 イ 分部町
 イ 伊豫町
 ミ 築地町
 シ 丸之内本町
 ノ 部

七三五
 一三八九
 九一
 八〇九
 四九一

村山佐助
 渡邊佐太郎
 淺生か
 林量藏
 別所政男

丸三磨砂株式會社
 勢州磨砂合資會社

富田商店

| | | | |
|-----------|-------------|----------|-----------|
| 自動車 (部分品) | 自動車 (販賣) | 自動車 (修繕) | 自動車 (部分品) |
| イ | イ | イ | ア |
| 榮丸之内本丸町 | 丸之内本丸町 | 伊豫町 | 伊豫町 |
| 一〇九五 | 一〇三八 | 一五八五 | 一五八五 |
| 梅川義雄 | 三重モーターズ株式會社 | 井上芳郎 | 廣瀬幸之助 |

| | |
|-----------|---------------|
| 人絹織物 (製織) | 人絹糸及織物 (染料、賣) |
| ア | イ |
| 中新町 | 藤下辨財町 |
| 八五三 | 一七二五 |
| 伊勢織物株式會社 | 伊勢織物株式會社 |

| | |
|-----------|---------|
| 人絹織物 (製織) | (乾物、罐詰) |
| ア | エ |
| 分部町 | 上千歳町 |
| 八六七 | 八六七 |
| 小林忠輝 | 小林忠輝 |

| | |
|----------|-------|
| (菓子、罐詰類) | 地頭領町 |
| ウ | イ |
| 魚久 | 分部町 |
| 八七三 | 八六六 |
| 土屋好三 | 加藤清二郎 |

| | | | |
|------|------|-----|-------------|
| 食料品 | 鹽 | 米穀 | 雜穀 |
| ウ | ア | ア | ア |
| 大門町 | 立口町 | 京口町 | 永居屋 |
| 五三一 | 二八八 | 八二五 | 八二五 |
| 永原榮吉 | 淺生確造 | 松田昂 | 北勢鹽業合資會社津支店 |

| | | |
|-------|--------|--------|
| 鹽 | (元賣捌) | (荒物雜貨) |
| ア | ア | ア |
| 角片岡屋 | 分部町 | 乙部 |
| 九五八 | 四一五 | 八八五 |
| 藤田八百助 | 清水與左衛門 | 平井房吉 |

| | |
|------|------|
| 米穀 | 雜穀 |
| ア | ア |
| 古河町 | 西新本町 |
| 一四八四 | 一四七〇 |
| 田中喜藏 | 磯野菊忠 |

| | |
|------|-------|
| 雜穀 | (亞炭) |
| ア | ア |
| 築地町 | 丸之内堀堀 |
| 五六五 | 一四七〇 |
| 川合又吉 | 出合又吉 |

寫眞材料 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業

ウ 京口町 立口町 宿屋町 地頭領町 乙内本町 九之内本町 ア イ ア ア ア ア ア ア ア

伊豫町 山口 伊豫町 伊豫町 伊豫町 伊豫町 伊豫町 伊豫町 伊豫町

銃砲火薬 銃砲火薬 銃砲火薬

一六三七 一六三四 一一五一 一二五二 一四〇一 一三七六 九八〇

森下守 長井榮三郎 山川善右衛門 田中喜藏 長谷川一美 藤井安右衛門 岩瀬江平 岡井朋藏 岡本尙廉 佐藤壽生 上野福太郎 水野福太郎 伊藤たけ 伊藤たけ 中尾一郎

寫眞、寫眞材料

寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業 寫眞業

ア ア ア ア ア ア ア ア ア

分内本町 丸之内本町 地頭領町 常磐町 常磐町 常磐町 常磐町 常磐町

自轉車 自轉車 自轉車 自轉車 自轉車 自轉車 自轉車 自轉車 自轉車

ア ア イ イ ア ア イ イ ア ア

岩田町 出田町 出田町 出田町 出田町 出田町 出田町 出田町 出田町

一〇四九

稻垣義三 磯野治三郎 森谷榮一 桐谷清子 廣瀬淳一郎 山中藤吉 内藤吉の 高橋音そ 峯平 木端博 田端清三郎 廣島光次郎

| | | | | | | | |
|-----------------|---|-------------|-----------|--|--|--|-------------|
| 〃 〃 精 | 紋 | 表 表 〃 〃 表 | | | | | |
| | 繪 | 具 具 | | | | | |
| | 師 | 材 料 | | | | | |
| 米 精 | ノ | ノ | 表 具 師 | | | | |
| エ エ | 部 | 部 | ア ア イ ア ア | | | | |
| 五 新 上 | ア | ア | 九 乙 北 萬 | | | | |
| 軒 濱 | 藏 | 繪 | 之 内 本 町 | | | | |
| 町 道 町 | 町 | 師 | 耕 墨 淡 耕 | | | | |
| 米 | | | 月 林 月 紙 | | | | |
| 藤 | | | 堂 堂 堂 堂 | | | | |
| 一〇三 八四 八〇 | | | 一〇二 | | | | 七八五 |
| 寺 岡 | 松 | 長 吉 安 乾 村 | | | | | 村 田 善 右 衛 門 |
| 三 島 芳 三 | 本 | 谷 村 保 義 之 輔 | | | | | 田 善 右 衛 門 |
| 宅 藤 左 衛 門 | 治 | 川 政 音 七 | | | | | 田 善 右 衛 門 |
| 店 衛 門 郎 | 良 | 信 藏 | | | | | 田 善 右 衛 門 |

| | | |
|-------------------|-----|---|
| 〃 〃 〃 〃 〃 〃 肥 | 〃 百 | 刺 |
| (油) | | 刺 |
| (米穀飼料) | | 刺 |
| ノ | ノ | 刺 |
| ウ ウ エ ア | 貨 百 | 刺 |
| 伊 伊 伊 | 貨 | 刺 |
| 豫 豫 豫 | 大 | 刺 |
| 町 町 町 | 門 | 刺 |
| 終 | 町 | 刺 |
| 屋 | | 刺 |
| 一六五 一六 六四 | | 刺 |
| 七〇六 | | 刺 |
| 九〇一 | | 刺 |
| 三五二 | | 刺 |
| 一三五 四五 | | 刺 |
| 六六一 七九 | | 刺 |
| 九一二 四二 | | 刺 |
| 八七 七九六 五六一 | | 刺 |
| 九二 七八三 三九三 | | 刺 |
| 會社 會社 | | 刺 |
| 丁 大 | | 刺 |
| 字 門 | | 刺 |
| 屋 百 | | 刺 |
| 商 貨 | | 刺 |
| 店 店 | | 刺 |
| 一三四 | | 刺 |
| 杉 山 義 助 | | 刺 |
| 稻 田 柴 久 鐵 田 小 | | 刺 |
| 垣 中 田 世 地 中 島 | | 刺 |
| 勘 清 儀 卯 川 喜 合 名 會 | | 刺 |
| 四 兵 三 兵 田 喜 合 名 會 | | 刺 |
| 郎 衛 郎 衛 助 助 社 | | 刺 |

染料

染料(藥品、賣藥、度量衡)

計量器、醫療器
(藥品、賣藥)
(醫療器)
(人絹、藥品)
(賣藥)

エ 分 部 町 高木屋 五 六
ウ 分 部 町 藤村堂 五 二 六
一 七 一 三 五 八
分 部 寅 吉
藤 村 吉 太 郎
加 藤 商 店

セメント

セメント
(陶磁器)
(石 灰)

(金 物)
(土 煉瓦)
(建築材料)

(陶磁器)
(煉瓦、土管)
(煉瓦、土管)

イ 上 濱 町 加 藤 新 五 郎 七 一 八
エ 大 門 町 鍋 屋 三 〇 〇
オ 地 頭 領 町 倉 清 一 七 一 四 九
ア 乙 部 倉 清 三 一 六
ア 分 部 町 片岡屋本店 九 五 八
ウ 分 部 町 角 與 四 二 五
線 香 町 長 榮 屋 一 五 七 〇
水 谷 幸 太 郎

線香

線香(蠟燭)

イ 榮 町 長 榮 屋 一 五 七 〇
水 谷 幸 太 郎

洗濯業

洗濯業
(倉庫業)

洗濯業
(倉庫業)

イ 西 部 町 高木屋 五 六
ア 乙 部 町 藤村堂 五 二 六
イ 丸之内 櫻 町 一 〇 八 五
ア 綿 内 町 九 六 一
二 〇 八 五
二 二 七 四
分 部 寅 吉
平 井 才 右 衛 門
糸 川 爲 雄
沼 田 清 一 郎
前 田 進
佐 藤 善 次 郎

石油

石油販賣
(綿糸、砂糖)

石油販賣
(肥料)

石油販賣
(肥料)

ウ 八 分 部 町 藤 枝 町 神 戸 屋 一 二 七
ウ 八 分 部 町 藤 枝 町 神 戸 屋 六 一 六
エ 丸之内 鯉 堀 町 一 七 六
エ 丸之内 鯉 堀 町 一 七 六
エ 丸之内 鯉 堀 町 三 〇 一 八
中 井 庄 太 郎
津 市 倉 庫 株 式 會 社
稻 垣 勘 四 郎
館 太 田 商 店
石 川 覺 造
深 尾 龜 三 郎

セロファン

セロファンウ分部町 三六五 大橋延郎

酢ノ部

酢製造 阿漕町

五〇一 山二造酢株式会社

法人一覽

(有権者ノミ)

銀行

| 名 稱 | 業 種 | 資 本 金 | 拂込資本金 | 設 立 年 月 | 所 在 地 | 代 表 者 氏 名 |
|-------------|-------|-------------|------------|------------|---------|-----------|
| 株式會社百五銀行 | 銀行 | 10,000,000圓 | 8,925,500圓 | 明治十一年十二月 | 丸之内齋堀 | 川喜田久太夫 |
| 〃 愛知銀行津支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 三十二年九月 | 同 | 沖 文 雄 |
| 〃 勢南銀行津支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 昭和三年三月 | 立 町 | 佐 波 元 三 |
| 〃 日本勸業銀行津支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 十二年五月 | 萬 町 | 毛 里 凱 兒 |
| 〃 百五銀行大門町支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 大正十三年四月 | 大 門 町 | 長 谷 川 九 郎 |
| 〃 三重共同貯蓄銀行 | 貯蓄銀行業 | 500,000 | 135,000 | 〃 大正十年一月 | 大 門 町 | 川喜田久太夫 |
| 〃 不動貯金銀行津支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 明治四十二年二月 | 中 之 番 町 | 日 比 野 正 治 |
| 〃 日本貯蓄銀行津支店 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 年十一月 | 京 口 町 | 佐 藤 時 重 |

株式會社

| | | | | | | |
|----------|------|------------|----------|----------|-----|---------|
| 關西製絲株式會社 | 生絲蠶種 | 1,400,000圓 | 925,000圓 | 明治廿九年十二月 | 柳 山 | 小島惣右衛門 |
| 株式會社津魚市場 | 市場 | 250,000 | 25,500 | 〃 大正二年一月 | 魚 町 | 岡 長 平 |
| 共融無盡株式會社 | 無盡業 | 100,000 | 25,000 | 〃 四年五月 | 藏 町 | 松 田 正 一 |
| 株式會社富田商店 | 織物業 | 200,000 | 100,000 | 〃 五年二月 | 古 河 | 富 田 謹 三 |

| | | | | | | | |
|-------------|----------|-----------|---------|---|--------|-------|---------|
| 津養魚株式會社 | 魚類養殖 | 150,000 | 八四,000 | 〃 | 五年十二月 | 上濱町 | 鈴木拙郎 |
| 内外製網株式會社 | 漁網編網機及香水 | 100,000 | 150,000 | 〃 | 六年三月 | 五軒町 | 速水健次郎 |
| 三重商事株式會社 | 有價證券買賣 | 100,000 | 100,000 | 〃 | 六年六月 | 丸之内本町 | 倉田源左衛門 |
| 株式會社川喜田商店 | 綿布 | 150,000 | 150,000 | 〃 | 六年十二月 | 丸之内臨堀 | 川喜田久太夫 |
| おぼろタル株式會社 | タオル | 300,000 | 210,000 | 〃 | 七年八月 | 下部田 | 森田庄三郎 |
| 相互商事株式會社 | 金銭貸付代理業 | 500,000 | 200,000 | 〃 | 十一年五月 | 丸之内臨堀 | 川喜田壯太郎 |
| 株式會社松田商店 | 洋服 | 100,000 | 50,000 | 〃 | 十一年十一月 | 大門町 | 松田甚十郎 |
| 株式會社津青物商會 | 青物 | 50,000 | 50,000 | 〃 | 十一年十一月 | 乙部 | 伊藤竹二郎 |
| 津市倉庫株式會社 | 倉庫業石炭販賣 | 150,000 | 150,000 | 〃 | 十三年七月 | 船頭町 | 田中林助 |
| 津冷蔵製水株式會社 | 製氷 | 30,000 | 9,000 | 〃 | 十四年三月 | 乙部 | 植山昇五郎 |
| 株式會社築地川喜田商店 | 肥料 | 100,000 | 100,000 | 〃 | 十四年七月 | 築地町 | 川喜田四郎兵衛 |
| 山二造酢株式會社 | 酢 | 100,000 | 100,000 | 〃 | 十五年二月 | 阿漕町 | 岩橋清治郎 |
| 安濃鐵道株式會社 | 運輸 | 100,000 | 100,000 | 〃 | 昭和二年七月 | 八町 | 紀平健吾 |
| 津市合同運送株式會社 | 〃 | 150,000 | 150,000 | 〃 | 二年九月 | 下部田 | 大原周治 |
| 弘陽印刷株式會社 | 印刷業 | 150,000 | 100,000 | 〃 | 〃 | 丸之内本町 | 松本宗重 |
| 丸三磨砂株式會社 | 磨粉販賣 | 50,000 | 15,000 | 〃 | 三年十一月 | 築地町 | 寺田音吉 |
| 三重モーター株式會社 | 自動車部分品 | 100,000 | 75,000 | 〃 | 三年十二月 | 丸之内本九 | 足立韓二 |
| 資生堂三重販賣株式會社 | 化粧品 | 10,000 | 10,000 | 〃 | 五年二月 | 西來寺町 | 森川正吉 |
| 合同瓦斯株式會社 | 瓦斯 | 1,000,000 | 750,000 | 〃 | 六年八月 | 中新町 | 安保庸三 |
| 三重聯合自動車株式會社 | 運輸 | 200,000 | 200,000 | 〃 | 六年八月 | 下部田 | 高石良吉 |

| | | | | | | | |
|------------------|---------|-----------|---------|---|---------|-----|-------|
| 大濱三鱗株式會社 | 煉炭 | 50,000 | 50,000 | 〃 | 七年七月 | 片濱町 | 湯口昌 |
| 錦華毛絲株式會社 | 梳毛糸 | 1,000,000 | 500,000 | 〃 | 九年一月 | 夕部 | 川畑恒二 |
| 三重中教株式會社 | 圖書販賣 | 10,000 | 10,000 | 〃 | 九年二月 | 下部田 | 加藤五百 |
| 株式會社伊藤商店 | 砂糖、麥粉 | 10,000 | 10,000 | 〃 | 九年六月 | 上濱町 | 伊藤太七記 |
| 伊勢織物株式會社 | 人絹織物 | 500,000 | 300,000 | 〃 | 九年七月 | 藤水 | 水谷清太郎 |
| 株式會社丸山糸店 | 綿糸綿布 | 100,000 | 90,000 | 〃 | 十年二月 | 岩田町 | 丸山好亮 |
| 南御殿場遊園地土地株式會社 | 土地賣買貸別荘 | 50,000 | 37,500 | 〃 | 十一年二月 | 藤方 | 松下憲次郎 |
| 三重縣クラブ特定品販賣株式會社 | 化粧品 | 15,000 | 9,000 | 〃 | 十一年三月 | 萬町 | 石丸清治郎 |
| 株式會社大門百貨店 | 百貨 | 100,000 | 100,000 | 〃 | 十一年四月 | 大門町 | 森田庄郎三 |
| 森永製品三重縣販賣株式會社 | 製菓 | 50,000 | 50,000 | 〃 | 十三年七月 | 伊豫町 | 芹澤勉喜知 |
| 東洋紡績株式會社津工場 | 綿布 | 〃 | 〃 | 〃 | 六年三月 | 船頭町 | 澤村策馬 |
| 日本簡易火災保險株式會社津出張所 | 保險 | 〃 | 〃 | 〃 | 七年五月 | 寶祿町 | 井上周 |
| 中勢鐵道株式會社 | 運輸 | 〃 | 〃 | 〃 | 九年二月 | 船頭町 | 井内彦四郎 |
| 株式會社丁子屋商店津支店 | 洋服 | 〃 | 〃 | 〃 | 九年五月 | 大門町 | 小林源四郎 |
| 住友生命保險株式會社津支部 | 保險 | 〃 | 〃 | 〃 | 十年一月 | 伊豫町 | 河野岩三郎 |
| 岸和田紡績株式會社津工場 | 綿糸 | 〃 | 〃 | 〃 | 十五年四月 | 上濱町 | 加藤憲次郎 |
| 日本動産火災保險株式會社津出張所 | 火災保險 | 〃 | 〃 | 〃 | 昭和四年十一月 | 新立町 | 藪田高 |
| 株式會社明治商店三重販賣所 | 製菓 | 〃 | 〃 | 〃 | 六年十二月 | 萬町 | 大乃川甚一 |

| | | | |
|---------------|----|-----------|-------|
| 參宮急行電鐵株式會社 | 運輸 | 昭和七年四月八日 | 井內彦四郎 |
| 倉敷毛糸株式會社 | 織物 | 昭和十年五月五日 | 高野勉 |
| 日本水産株式會社津工場 | 製糖 | 昭和十二年四月五日 | 利光三郎 |
| 東邦電力株式會社津支店 | 電力 | 昭和十二年五月五日 | 成瀬萬一 |
| 日本生命保險株式會社津支部 | 保險 | 昭和十五年六月五日 | 神田鎮 |

合名會社

| 名 | 業種 | 出資額 | 設立年月 | 所在地 | 代表者氏名 |
|-------------|----------|---------|---------|------|--------|
| 合名會社太田商店 | 砂糖、麥粉、石油 | 一六五、〇〇〇 | 大正六年十二月 | 分部町 | 太田茂雄 |
| 小島合名會社 | 肥料 | 一〇〇、〇〇〇 | 大正十二年四月 | 船頭町 | 小島惣右衛門 |
| 合名會社福井吳服店 | 吳服 | 三〇、〇〇〇 | 大正十五年五月 | 宿屋町 | 福井松藏 |
| 合名會社梅本北店 | ゴム製品 | 二七、五〇〇 | 昭和二年三月 | 地頭領町 | 梅本宗二郎 |
| 合名會社大和屋商店 | 絹綿糸タオル | 二二、〇〇〇 | 昭和二年三月 | 伊豫町 | 中川彌助 |
| 合名會社三宅商店 | 米雜穀 | 五〇、〇〇〇 | 三年一月 | 伊豫軒町 | 三宅勝吉 |
| 合名會社梅本惣兵衛商店 | 洋物洋服 | 五〇、〇〇〇 | 三年一月 | 伊豫軒町 | 梅本惣兵衛 |
| 合名會社紙平吳服店 | 吳服 | 三〇、〇〇〇 | 三年一月 | 宿屋町 | 前葉岩吉 |
| 合名會社白銀屋洋物店 | 洋品雜貨 | 二五、〇〇〇 | 三年二月 | 大門町 | 倉田喜太郎 |
| 合名會社神田藥局 | 藥品 | 一六、二〇〇 | 六年八月 | 八町 | 藤枝利助 |
| 合名會社大觀亭 | 旅館料理 | 二五、〇〇〇 | 六年八月 | 入江町 | 植山昇五郎 |
| 合名會社九山酒店 | 酒販賣 | 三〇、〇〇〇 | 六年八月 | 東町 | 九山藤七 |

| | | | | | |
|--------------|-------|---------|------|------|--------|
| 合名會社森本仙右衛門商店 | 清酒及造醬 | 一五〇、〇〇〇 | 六年九月 | 伊豫町 | 森本仙右衛門 |
| 合名會社中川屋吳服店 | 吳服 | 二〇〇、〇〇〇 | 九年三月 | 中之番町 | 中川梅吉 |

合資會社

| 名 | 業種 | 出資額 | 設立年月 | 所在地 | 代表者氏名 |
|-------------------|--------|---------|---------|-------|---------|
| 國分共同合資會社 | 建築材料 | 三〇〇、〇〇〇 | 大正十一年三月 | 乙部 | 後藤久彌 |
| 合資會社伊勢晒工場 | 綿糸布加工 | 一四、五〇〇 | 十二年一月 | 榎ノ下 | 中川清錦 |
| 合資會社三重縣國定教科書特約販賣所 | 教科書 | 三三、〇〇〇 | 十五年十二月 | 下部田 | 加藤五百記 |
| 合資會社長谷部藥局 | 藥業 | 一三、〇〇〇 | 昭和四年二月 | 地頭領町 | 長谷部長右衛門 |
| 合資會社武田商店 | 塗料 | 五、〇〇〇 | 六年一月 | 丸之内本町 | 武田信太郎 |
| 合資會社太田書店 | 書籍 | 一八、〇〇〇 | 六年十二月 | 立町 | 太田信太郎 |
| 巴自動車合資會社 | 運輸 | 八、〇〇〇 | 〃 | 丸之内鯉堀 | 德田貫一 |
| 合資會社濱田商會 | 手藝材料 | 八、六〇〇 | 〃 | 立町 | 濱田あきの |
| 合資會社白銀屋硝子店 | 硝子 | 二〇、〇〇〇 | 〃 | 大門町 | 森美郎 |
| 合資會社加藤商店 | 染子 | 八〇、〇〇〇 | 八年九月 | 分部町 | 加藤長次郎 |
| 合資會社木村帽子專門店 | 帽子 | 四〇、〇〇〇 | 十年三月 | 立町 | 木村貞次 |
| 合資會社小野工務店 | 建築材料 | 五、〇〇〇 | 昭和十一年六月 | 萬町 | 小野六輔 |
| 合資會社山口組 | 土木建築請負 | 二〇、〇〇〇 | 十一年九月 | 丸之内泉町 | 山口利右衛門 |
| 合資會社平松商會 | 飼料 | 五、〇〇〇 | 十一年九月 | 新魚町 | 平松久雄 |
| 合資會社聽潮館 | 旅館料理 | 五、五〇〇 | 十一年十一月 | 極樂町 | 後藤登美代 |
| 北勢鹽業合資會社津支店 | 鹽 | 一 | 大正十四年四月 | 乙部 | 川口喜四郎 |

工場

| 工場名 | 所在地 | 創業年月 | 製品種類 |
|--------------|---------|---------|-------|
| 坂口製絲工場 | 乙 丸之内本町 | 明治十三年十月 | 製絲 |
| 株式會社伊勢新聞社 | 乙 丸之内本町 | 〃 | 新聞 |
| 弘陽印刷株式會社工場 | 〃 | 十八年一月 | 印刷 |
| 株式會社松田商店裁縫工場 | 大 門町 | 二十一年五月 | 洋服裁縫 |
| 市川燐寸箱生地製造工場 | 船 頭町 | 二十八年一月 | 燐寸箱生地 |
| 林口薄板製造工場 | 〃 | 二十九年三月 | 薄板 |
| 關西製絲株式會社工場 | 〃 | 〃 | 生絲、蠶種 |
| 共昌社印刷工場 | 柳 山 | 〃 | 印刷 |
| 東洋紡績株式會社工場 | 萬 柳 | 三十一年七月 | 綿絲、綿布 |
| 賀來工場 | 船 頭 | 〃 | 燐寸箱生地 |
| 盛林號工場 | 佐 伯 | 三十四年一月 | 燐寸箱生地 |
| 富田金七織物工場 | 乙 濱 | 三十七年一月 | 靴中敷 |
| 國分製材工場 | 上 濱 | 三十九年七月 | 製材 |
| 谷本妻楊子製造工場 | 船 頭 | 四十一年三月 | 製材 |
| 山村活版印刷所工場 | 下 濱 | 四十二年八月 | 印刷 |
| 伊勢織物工場 | 下 濱 | 四十五年七月 | 製材 |

| 工場名 | 所在地 | 創業年月 | 製品種類 |
|-----------------|-------|--------|-----------|
| 伊勢織物工場 | 相 生 | 大正元年十月 | 綿布、綿絲(絹上) |
| 大森織物合名會社工場 | 餘 慶 | 〃 | 毛織物、綿織物 |
| 内外製網株式會社工場 | 五 軒 | 〃 | 漁網、編網機 |
| 森田竹製品工場 | 丸之内鯉堀 | 〃 | 竹材、竹細工品 |
| 伊勢織物株式會社 | 藤 方 | 〃 | 人絹織物 |
| おぼろタオル株式會社 | 下 部 | 〃 | タオル |
| 乾 鐵 工 所 | 古 河 | 〃 | 鐵工 |
| 若林人絹織物工場 | 西 阿漕 | 〃 | 人絹織物 |
| 株式會社丁屋洋服裁縫工場 | 大 門 | 〃 | 洋服裁縫 |
| 小林麻絲加工工場 | 乙 門 | 〃 | 麻加工 |
| 國分製材工場 | 出 口 | 〃 | 製材 |
| 東邦電力株式會社三重火力發電所 | 古 河 | 〃 | 發電 |
| 内 山 浴 巾 工場 | 柳 山 | 〃 | タオル |
| 宇留田靴中敷工場 | 下 辨 | 〃 | 靴中敷 |
| 岸和田紡績株式會社工場 | 上 濱 | 〃 | 綿糸 |
| 三重縣印刷工場 | 下 部 | 〃 | 印刷 |
| 鈴木製粉工場 | 西 阿漕 | 〃 | 製粉 |
| 水谷鑄物工場 | 柳 山 | 〃 | 鑄物 |
| 津織物株式會社工場 | 上 濱 | 〃 | 人絹織物 |

商業組合

| | | | | | |
|---------------|------|---|---|--------|-------|
| 奥野製絲工場 | 上辨財町 | 〃 | 〃 | 六年一月 | 製絲 |
| 高野人絹織物工場 | 〃 | 〃 | 〃 | 八年五月 | 人絹織物 |
| 天野靴中敷製造工場 | 山 | 〃 | 〃 | 十年七月 | 靴中敷 |
| 太平木綿工場 | 〃 | 〃 | 〃 | 十一年一月 | 綿織物 |
| 菅尾製絲工場 | 上辨財町 | 〃 | 〃 | 十一年十一月 | 製絲 |
| おぼろタオル第二工場 | 上濱町 | 〃 | 〃 | 十二年四月 | タオル |
| 錦華毛糸株式會社工場 | 下田 | 〃 | 〃 | 〃 | 毛糸 |
| 阪本鐵工所 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 鐵工 |
| 倉敷紡績株式會社津毛織工場 | 上濱町 | 〃 | 〃 | 〃 | 毛織物 |
| 奥山製材工場 | 柳山 | 〃 | 〃 | 十三年一月 | 製材 |
| 株式會社富田商店 | 古河 | 〃 | 〃 | 五年二月 | 織物 |
| 津市銃後奉公會授産場 | 本町 | 〃 | 〃 | 十三年六月 | 加織 |
| 北出撚絲工場 | 古河 | 〃 | 〃 | 〃 | 人絹撚絲 |
| 朝日海産合名會社工場 | 上濱町 | 〃 | 〃 | 〃 | 養鶏飼料 |
| 東洋織維工業研究所工場 | 野崎垣内 | 〃 | 〃 | 十四年一月 | 織維 |
| 昌邦機械工業株式會社工場 | 五軒町 | 〃 | 〃 | 〃 | 鑄造 |
| 津輕金屬工業所 | 上濱町 | 〃 | 〃 | 〃 | 輕金屬 |
| 一志タオル加工教習所工場 | 西阿漕町 | 〃 | 〃 | 十五年一月 | タオル加工 |
| 大軌興業有限會社津工場 | 古河 | 〃 | 〃 | 〃 | 土木建築 |

| | | | |
|---------------|---------|-----------------|---------|
| 三重縣蓄音器小賣商業組合 | 津市京口町 | 三重縣 | 昭和九年十二月 |
| 津安濃自轉車小賣商業組合 | 〃新中町 | 津市、安濃郡 | 〃 |
| 津洋服商業組合 | 〃西町 | 鈴鹿郡、河藝郡、津市、一志郡 | 〃 |
| 津米穀商業組合 | 〃新東町 | 津市、一身田町、栗真村 | 〃 |
| 三重縣綿糸卸商業組合 | 〃岩田町 | 〃 | 〃 |
| 三重縣毛糸卸商業組合 | 〃岩田町 | 〃 | 〃 |
| 大門町商業組合 | 〃大門町 | 津市、大門町 | 〃 |
| 津タクシ一商業組合 | 〃古河 | 津市 | 〃 |
| 三重縣揮發油小賣商業組合 | 〃下部田町 | 三重縣 | 〃 |
| 三重縣揮發油特約店商業組合 | 〃三重縣廳内 | 〃 | 〃 |
| 三重縣揮發油販賣店商業組合 | 〃津市下部田町 | 津市及河藝、安濃、一志郡 | 〃 |
| 三重縣中部屑物問屋商業組合 | 〃津市出口町 | 〃 | 〃 |
| 三重縣銅材特約店商業組合 | 〃宿屋町 | 三重縣 | 〃 |
| 津織物小賣商業組合 | 〃津商工會議所 | 津市、安濃、一志、鈴鹿、河藝郡 | 〃 |
| 三重縣織物卸商業組合 | 〃岩田町 | 〃 | 〃 |
| 三重縣糸物小賣商業組合 | 〃〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣皮革商業組合 | 〃下部田町 | 〃 | 〃 |

工業組合

| | | | | | |
|-----------------|---|--------|--------------------------------|---|--------|
| 三重縣洋品雜貨商業組合 | 〃 | 大門町 | 縣下五市三十三ヶ町 | 〃 | 十四年二月 |
| 三重縣護謨製品小賣商業組合 | 〃 | 地頭領町 | 三重縣 | 〃 | 二 |
| 津木材商業組合 | 〃 | 丸之内鱈堀 | 津市 | 〃 | 三 |
| 津金物販賣店商業組合 | 〃 | 宿屋町 | 〃 | 〃 | 六 |
| 三重縣亞鉛鐵板地方問屋商業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣線材製品地方問屋商業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津電器、ラヂオ商業組合 | 〃 | 丸之内本町 | 津市、一志、河藝郡 | 〃 | 五 |
| 三重縣農機具商業組合 | 〃 | 津市下部田町 | 三重縣 | 〃 | 十四年七月 |
| 三重縣足袋商業組合 | 〃 | 岩田町 | 〃 | 〃 | 十四年七月 |
| 三重縣カーバイド商業組合 | 〃 | 築地町 | 〃 | 〃 | 十二 |
| 三重縣輕自動車タイヤ商業組合 | 〃 | 伊豫町 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 津砂糖小賣商業組合 | 〃 | 分部町 | 津、安濃、一志、鈴鹿郡 | 〃 | 二 |
| 三重縣米穀商業組合聯合會 | 〃 | 下部田町 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣地下足袋特約店商業組合 | 〃 | 地頭領町 | 〃 | 〃 | 十四年十二月 |
| 津市牛乳商業組合 | 〃 | 丸之内本町 | 津、安濃、河藝、栗真村 | 〃 | 五 |
| 三重縣自動車タイヤ商業組合 | 〃 | 伊豫町 | 三重縣 | 〃 | 六 |
| 中勢肥料商業組合 | 〃 | 中茶屋町 | 津市、松阪市、飯南、一志、安濃、河藝、一身田町、大里、三重縣 | 〃 | 七 |
| 三重縣混合飼料商業組合 | 〃 | 津市新東町 | 〃 | 〃 | 十四年十一月 |
| 三重縣砂糖卸商業組合 | 〃 | 分部町 | 〃 | 〃 | 八 |

| | | | | | |
|---------------|---|-------|---|---|--------|
| 三重縣鐵機商業組合 | 〃 | 丸之内本町 | 津市、河藝郡、栗真村 | 〃 | 十二 |
| 三重縣鷄卵卸商業組合 | 〃 | 古河 | 〃 | 〃 | 十二 |
| 三重縣鐵油小賣商業組合 | 〃 | 下部田 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣薪炭商業組合 | 〃 | 築地町 | 津市、河藝郡、栗真村 | 〃 | 十二 |
| 伊勢輸出タオル工業組合 | 〃 | 津市築地町 | 三重縣(四日市市、桑名市、桑名郡、員辨郡、三重郡、除夕)三市十二郡 | 〃 | 昭和六年七月 |
| 伊勢織物工業組合 | 〃 | 下部田 | 津市、四日市市、桑名市、安濃郡、河藝郡、鈴鹿郡、三重郡、桑名郡、員辨郡、阿山郡、名賀郡、三重縣 | 〃 | 七年一月 |
| 三重縣製氷工業組合 | 〃 | 乙部町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣醬油味噌工業組合 | 〃 | 佐伯町岩田 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣瓦工業組合 | 〃 | 下部田 | 〃 | 〃 | 八年九月 |
| 三重縣人絹織物工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 九年五月 |
| 津鐵工機械器具工業組合 | 〃 | 鱈堀 | 津市及河藝郡、一志郡ノ一部 | 〃 | 十一年十一月 |
| 三重縣ゴム工業組合 | 〃 | 下部田 | 三重縣 | 〃 | 十二年一月 |
| 三重縣製綿工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣內地向莫大小工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣靴中敷工業組合 | 〃 | 〃 | 三重縣、神奈川縣 | 〃 | 〃 |

| | | | | |
|--------------|---|----------------|---|-------|
| 三重縣製紐工業組合 | 〃 | 三重縣 | 〃 | 十三年四月 |
| 三重縣毛織物工業組合 | 〃 | 三重縣 | 〃 | 十三年二月 |
| 三重縣製靴工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 八 月 |
| 三重縣馬具革具工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 十二 月 |
| 津市金屬薄板加工工業組合 | 〃 | 津市 | 〃 | 〃 |
| 津市木工製品工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 十四年二月 |
| 三重縣農機具工業組合 | 〃 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣タイヤ再製工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣布帛製品工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 中勢鑄物工業組合 | 〃 | 津市、河藝郡、安濃郡、鈴鹿郡 | 〃 | 〃 |
| 三重縣漆器工業組合 | 〃 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣帆布防水布工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣藥品賣藥工業組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 十五年一月 |

同業組合及組合聯合會

組合名稱

事務所位置

組合及團體區域

設立年月

| | | | | | |
|--------------|---|-------|-----------------|---|----------|
| 三重縣醬油同業組合 | 〃 | 津市下部田 | 三重縣 | 〃 | 明治三十二年五月 |
| 三重縣清涼飲料水同業組合 | 〃 | 新東町 | 〃 | 〃 | 大正八年十二月 |
| 三重縣伊勢表同業組合 | 〃 | 愛宕町 | 津市、安濃、一志、飯南、多氣郡 | 〃 | 明治四十年九月 |

| | | | | | |
|------------------|---|--------|-----------------------|---|---------|
| 三重縣木炭同業組合聯合會 | 〃 | 中茶屋町 | 飯南、多氣、度會、一志、多賀、木炭同業組合 | 〃 | 大正十四年七月 |
| 三重縣繭絲業同業組合 | 〃 | 下部田 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣茶業組合聯合會 | 〃 | 下部田 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣酒造組合聯合會 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 三重縣鐵工機械器具工業組合聯合會 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 昭和十二年六月 |
| 三重縣織物小賣商業組合聯合會 | 〃 | 東 町 | 〃 | 〃 | 十四年四月 |
| 三重縣肥料商業組合聯合會 | 〃 | 津市中茶屋町 | 三重縣 | 〃 | 〃 |
| 三重縣洋服商業組合聯合會 | 〃 | 西 町 | 〃 | 〃 | 十四年八月 |
| 三重縣米穀商業組合聯合會 | 〃 | 下部田 | 〃 | 〃 | 十一月 |
| 三重縣土木建築請負業組合聯合會 | 〃 | 津市榮町 | 〃 | 〃 | 十五年二月 |
| 三重縣土木建築請負業組合聯合會 | 〃 | 山之瀬古町 | 津市 | 〃 | 六年十二月 |
| 三重縣第一津支部 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

商工業組合及團體

名稱

事務所位置

組合及團體區域

設立年月

| | | | | | |
|------------|---|-------|------------|---|---------|
| 津市商工會 | 〃 | 津市會議所 | 津市 | 〃 | 昭和十二年一月 |
| 三重縣釀造研究所 | 〃 | 津市下部田 | 三重縣 | 〃 | 大正八年十月 |
| 津安濃煙草小賣人組合 | 〃 | 立 町 | 津市、安濃郡 | 〃 | 九年三月 |
| 中勢肥料商組合 | 〃 | 船頭領町 | 多氣、度會、宇治山田 | 〃 | 十四年四月 |

| | | | | | |
|----|-----------|--------|-------|---|---|
| 津市 | 染色業組合 | 〃 | 釜屋町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 砂糖商組合 | 〃 | 分部町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 吳服商組合 | 〃 | 宿屋町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 足袋商組合 | 〃 | 伊豫町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 藥業組合 | 〃 | 分部町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 履物商組合 | 〃 | 京口町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 雨傘製造業組合 | 〃 | 伊豫町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 菓子商組合 | 〃 | 立町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 洋物雜貨商組合 | 〃 | 大門町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 古物商組合 | 〃 | 東町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 小間物化粧品商組合 | 津市中之番町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 酒類販賣業組合 | 岩田町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 文具商組合 | 伊豫町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 雜穀商組合 | 西之口出屋敷 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 安濃鹽小賣人組合 | 岩田町 | 津市、安濃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 陶磁器商組合 | 東町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 藤業組合 | 地頭領町 | 津市 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 漆工業組合 | 丸之内本町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 表具師組合 | 萬町 | 津市 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 鋼鐵商組合 | 大門町 | 〃 | 〃 | 〃 |

安政元年 五月
 明治四十二年 六月
 大正十一年
 明治四十二年 五月
 安政元年

| | | | | | |
|----|-----------|-------|------|---|---|
| 津市 | 賣屋組合 | 〃 | 藤枝町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 漁業組合 | 〃 | 中河原 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 電力使用者組合 | 〃 | 下辨財町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 材木商組合 | 〃 | 船頭町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 漆器荒物商組合 | 〃 | 伊豫町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 麵類商組合 | 〃 | 八幡町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 銅器製造業組合 | 〃 | 魚口町 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 蒲鉾商組合 | 津市京口町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 料理屋組合 | 下部田 | 津市 | 〃 | 〃 |
| 津市 | タオル組合 | 立町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 乾青商組合 | 萬町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 理髮業組合 | 伊豫町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 婦人子供服地商組合 | 京口町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 書籍雜誌商組合 | 乙部 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 竹商工組合 | 常磐町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 銅鐵細工商組合 | 地頭領町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 寫眞業組合 | 丸之内本町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 餅商組合 | 大門町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 硝子商組合 | 地頭領町 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市 | 食料品商組合 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

大正十二年 一月
 大正十四年

| | | | | |
|------------|---|---------|---|-----|
| 津市茶商組合 | 〃 | 丸之内櫻町 | 〃 | 三重縣 |
| 津市ゴム製品商組合 | 〃 | 分部町 | 〃 | 〃 |
| 津市正式商榮組合 | 〃 | 西來寺町 | 〃 | 〃 |
| 津市時計商組合 | 〃 | 京口町 | 〃 | 〃 |
| 津市玩具商組合 | 〃 | 東門町 | 〃 | 〃 |
| 三重縣銀行集會所 | 〃 | 大門町 | 〃 | 〃 |
| 三重縣同盟銀行會 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 津市綿業組合 | 〃 | 西新町 | 〃 | 津市 |
| 津市電業組合 | 〃 | 丸之内綠町 | 〃 | 〃 |
| 津市靴業組合 | 〃 | 地頭領町 | 〃 | 〃 |
| 津市塗裝業組合 | 〃 | 丸之内本町 | 〃 | 〃 |
| 津市自轉車商組合 | 〃 | 丸之内本町 | 〃 | 〃 |
| 津市提燈業組合 | 〃 | 常磐町 | 〃 | 〃 |
| 津市糸物商組合 | 〃 | 伊豫町 | 〃 | 〃 |
| 津市造醬組合 | 〃 | 極樂町 | 〃 | 〃 |
| 津市輸出品製造業組合 | 〃 | 津商工會議所 | 〃 | 〃 |
| 津市靴商組合 | 〃 | 津市丸之内本町 | 〃 | 〃 |
| 津市魚仲買人組合 | 〃 | 萬町 | 〃 | 〃 |
| 津市カフエー組合 | 〃 | 西町 | 〃 | 〃 |
| 津市墨商組合 | 〃 | 西來寺町 | 〃 | 〃 |

大正十一年八月

大正十年一月
同 年 五 月
明治十九年一月
慶應元年四月

昭和九年九月

| | | | | |
|-----------------|---|--------|---|---|
| 津市文房具小賣組合 | 〃 | 岩田町 | 〃 | 〃 |
| 津市紹介業組合 | 〃 | 辨財町 | 〃 | 〃 |
| 中京セメント販賣業組合三重支部 | 〃 | 津商工會議所 | 〃 | 〃 |
| 津商工業組合協會 | 〃 | 津商工會議所 | 〃 | 〃 |
| 津市旅館業組合 | 〃 | 津市中之沓町 | 〃 | 〃 |

三重縣

昭和十二年六月
昭和十五年六月

官 公 衙

| | | |
|----------|-------|-----|
| 三重縣廳 | 中茶屋町 | 二〇〇 |
| 安濃津地方裁判所 | 丸之内殿町 | 二〇〇 |
| 安濃津區裁判所 | 〃 | 二〇〇 |
| 安濃津供託局 | 〃 | 二〇〇 |
| 津市役所 | 丸之内本町 | 二〇〇 |
| 津市新町出張所 | 八之内 | 二〇〇 |
| 津市藤水出張所 | 藤方 | 二〇〇 |
| 津市高茶屋出張所 | 高茶屋 | 二〇〇 |
| 津市立傳染病院 | 榮茶屋 | 二〇〇 |
| 津市立傳染病院 | 中河 | 二〇〇 |
| 津聯隊區司令部 | 西堀端 | 二〇〇 |

| | | |
|---------|-------|-----|
| 津憲兵分隊 | 西阿漕町 | 二〇〇 |
| 津警務署 | 大門町 | 二〇〇 |
| 津稅務署 | 丸之内本町 | 二〇〇 |
| 津郵便局 | 〃 | 二〇〇 |
| 津上濱郵便局 | 上濱 | 二〇〇 |
| 津驛前郵便局 | 下濱 | 二〇〇 |
| 津藤枝郵便局 | 藤枝 | 二〇〇 |
| 津塔世橋郵便局 | 榮門 | 二〇〇 |
| 津大門郵便局 | 大門 | 二〇〇 |
| 津伊豫町郵便局 | 伊豫 | 二〇〇 |
| 津辨財郵便局 | 上辨財 | 二〇〇 |

| | | | | | |
|----------|----|-----|---------|---------|-----|
| 津八町郵便局 | 八 | 一八六 | 三重縣津測候所 | 柳山 | 二八 |
| 津乙部郵便局 | 乙部 | 一八七 | 三重縣刑務所 | 櫻ヶ丘町 | 八 |
| 三重縣工業試驗場 | 下部 | 一八二 | 三重縣國兒學園 | 市外栗真村町屋 | 一八二 |
| 三重縣種畜場 | 小津 | 一八三 | | | |
| 三重縣蠶業試驗場 | 津 | 一八八 | | | |
| 三重縣繭檢定所 | | 一四三 | | | |

學校及圖書館

| | | | | | |
|------------|---------|-----|---------------|-------|-----|
| 三重高等農林學校 | 上濱町 | 一六一 | 恭和尋常小學校 | 中河原 | 一八〇 |
| 三重縣立師範學校 | 丸之內殿町 | 一六一 | 修成尋常小學校 | 宮之原 | 一七〇 |
| 三重縣立津中學校 | 刑部 | 一五〇 | 立誠尋常小學校 | 下河原 | 一八三 |
| 三重縣立津高等女學校 | 柳山 | 一五〇 | 知敬尋常小學校 | 中河原 | 一九〇 |
| 三重縣立盲啞學校 | 下部 | 一五〇 | 育生尋常小學校 | 下辨財町 | 一九三 |
| 津市立勸精商業學校 | 市外神戸村半田 | 一五〇 | 新町尋常高等小學校 | 刑部 | 一八八 |
| 工業學校 | 出河 | 一五〇 | 藤水尋常高等小學校 | 藤水 | 一六三 |
| 津市立高等女學校 | 古河 | 一五〇 | 高茶屋尋常高等小學校 | 高茶屋 | 一七五 |
| 高等公民學校 | 九之內本町 | 一五〇 | 三重縣立師範學校附屬小學校 | 丸之內殿町 | 一七五 |
| 津市養正尋常小學校 | | 一五〇 | 三重縣立圖書館 | 古河 | 一五〇 |

鐵道

| | | | | | |
|--------|------|------------|------|------------|---------|
| 津 | 阿 | 高 | 津 | 津 | 津 |
| 阿漕驛 | 高茶屋驛 | 津宮急行電鐵株式會社 | 津新町驛 | 津宮急行電鐵株式會社 | 津新地驛 |
| 下部 | 西阿漕町 | 下部 | 八町 | 新東町 | 新東町 |
| 電話番號 | 一九〇 | 電話番號 | 一四一 | 一〇九 | 一〇九 |
| 結城神社前驛 | 江戶橋驛 | 中勢鐵道株式會社 | 岩田橋驛 | 阿漕新町驛 | 安濃鐵道新町驛 |
| 下部 | 八幡町 | 上濱町 | 船頭町 | 西阿漕町 | 刑部 |
| 電話番號 | 二六六 | 電話番號 | 二七 | 三三 | 三三 |

新聞社通信部

| | | | |
|------------|-------|------|------|
| 伊勢新聞社 | 九之內本町 | 電話番號 | 一七〇 |
| 名古屋新聞三重支局 | 西町 | 電話番號 | 一七〇 |
| 新愛知新聞津支局 | 下部 | 電話番號 | 一七〇 |
| 大阪朝日新聞津通信部 | 常磐町 | 電話番號 | 一七三六 |
| 大阪每日新聞津通信部 | 下釜屋町 | 電話番號 | 一七三六 |
| 津通信社 | 下釜屋町 | 電話番號 | 一七三六 |
| 報知新聞通信員駐在所 | 下釜屋町 | 電話番號 | 一七三六 |

興信所

帝國興信所
東京商業興信所
商業興信所

分部置
山之瀨古町
北町

電話番號
七五六
一一一〇
一三三五

津商工會議所議員及役員

役員

| | | | |
|-----|----------|-----|---------|
| 會頭 | 田中 林助 | 常議員 | 小島 惣右衛門 |
| 副會頭 | 後藤 仁兵衛 | 同 | 瀨古 尊勝 |
| 常議員 | 川喜田 四郎兵衛 | 同 | 久世 卯兵衛 |
| 同 | 中川 藤右衛門 | 同 | 岩脇 利吉 |
| 同 | 森田 庄三郎 | 理事 | 久岡 觀 |

議員 (議席順)

職業

住所

電話

氏名

| | | | | | |
|-------------|--------|------|------|----------------|----------|
| 會社重役 | 北堀 端 | 會社宅 | 四七〇 | 關西製絲株式會社代表者 | 小島 惣右衛門 |
| 會社重役 | 築地 町 | 會社宅 | 五五二 | 株式會社築地川喜田商店代表者 | 川喜田 四郎兵衛 |
| 旅館、料理業 | 京口 町 | 一〇四四 | 三〇〇 | 三重乘合自動車株式會社代表者 | 鈴木 喜七郎 |
| 書籍商 | 京口 町 | 三五七 | 一三五八 | 合名會社三宅商店代表者 | 岡 長治郎 |
| 電動機、電氣、工事請負 | 丸之內 綠町 | 二二〇 | 三四〇 | 株式會社津魚市場代表者 | 岡 長平 |
| 吳服、洋太物商 | 宿屋 町 | 一〇四四 | 二二八 | | 羽田 貞吉 |
| 會社重役 | 塔世西裏 | 一三五八 | 二二四 | | 後藤 仁兵衛 |
| 菓子商 | 八軒 町 | 二二八 | 三二八 | | 小野 萬次郎 |
| 米穀商 | 五軒 町 | 二二四 | 九二八 | | 森 謹三郎 |
| 會社重役 | 北濱 町 | 二二八 | | | |
| 海產物商 | 魚樂 町 | 二二八 | | | |
| 醬油釀造業 | 極樂 町 | 二二八 | | | |
| 綿織業 | 西新 町 | 二二八 | | | |
| 織機製造業 | 古河 | 二二八 | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|------|
| 青物問屋 | 立町 | 住宅 | 五〇二 |
| ゴム製品商 | 分部、町 | 住宅 | 一三二二 |
| 米穀商 | 新道 | 住宅 | 五三八 |
| 會社重役 | 西阿漕町 | 會社 | 一七九三 |
| 菓子商 | 中之番町 | 住宅 | 一〇〇四 |
| 和洋紙商 | 贊崎町 | 住宅 | 一六八九 |
| 青、乾物商 | 千歳町 | 住宅 | 三六八 |
| 材木商 | 丸之内南町 | 住宅 | 三〇八一 |
| 荒物商 | 榮町 | 住宅 | 五三四 |
| 米穀、肥料商 | 西ノ口出屋敷 | 住宅 | 三〇八一 |
| 會社重役 | 安濃郡神戸村半田 | 會社 | 一〇五 |
| 會社重役 | 下部田 | 會社 | 六五一 |
| 吳服商 | 丸之内本丸 | 住宅 | 六六七 |
| 荒物商 | 立合町 | 住宅 | 七四八 |

| | |
|--------------|---------------|
| 天春源太郎 | 津市合同運送株式會社代表者 |
| 水谷徳次郎 | 寺島藤左衛門 |
| 大原周 | 岩脇利吉 |
| 三藤重男 | 瀨古尊勝 |
| 國分市太郎 | 田中三七郎 |
| 田中三林助 | 田中三林助 |
| 株式會社百五銀行代表者 | 雲井憲二郎 |
| 和ぼろ夕才株式會社代表者 | 森田庄三郎 |
| 小菅利三郎 | 鈴木芳尾 |

| | |
|------------|------------|
| 皮革商 | 皮革商 |
| 命物商 | 命物商 |
| 材木商 | 材木商 |
| 肥料商 | 肥料商 |
| 染料化學藥品商 | 染料化學藥品商 |
| 和洋紙商 | 和洋紙商 |
| (一名欠員) | |
| 三重縣經濟部長 | 三重縣經濟部長 |
| 津市長 | 津市長 |
| 株式會社百五銀行頭取 | 株式會社百五銀行頭取 |
| 津市立勵精商業學校長 | 津市立勵精商業學校長 |
| 津市立工業學校長 | 津市立工業學校長 |

市會議員

| | | | | | | | |
|-----|-----|--------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 常磐町 | 乙部 | 津市下部舍田 | 官廳 | 乙部 | 垂水千歳山 | 古堀河 | 西堀端 |
| 六二三 | 一四九 | 一七四 | 九二二 | 三五二 | 宅會社 | 宅會社 | 宅會社 |
| 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 宅會社 | 宅會社 | 宅會社 |
| 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 宅會社 | 宅會社 | 宅會社 |
| 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 一七三 | 宅會社 | 宅會社 | 宅會社 |

| | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|--------|-------|------|
| 河邊房吉 | 倉田半七郎 | 谷口榮藏 | 久世卯兵衛 | 加藤長次郎 | 村田真一 | 西岡廣吉 | 堀川美哉 | 川喜田久太夫 | 原田仙之助 | 溝口松雄 |
|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|--------|-------|------|

多松三安度河多北阿四鈴員南北度南津桑一
 賀阪重濃會藝氣牟山日鹿辨牟牟會牟牟名志
 郡市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

岩西石藤小早岡濱堀宮佐林小西嘉松酒水杉
 名川谷切川山田川田小藤全西田正本井谷本
 秀市茂重俊勝正三右邦兵利常隆三郎馬昇一
 松郎誠郎郎一三平郎門則衛雄藏三郎馬昇一

阿飯桑宇鈴志一志度河宇飯度四三多三津一
 山南名山鹿摩志摩會藝山南會日重氣重志
 郡郡市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

福倉水小小石小中東別富田大山川土天大松
 島田林龜原野村府澤村幸源村屋春原本
 吉米谷豐衡圓耕幸善友次太源助貢忠郎治郎
 五之太一吉郎吉二郎淳稔郎助貢忠郎治郎
 郎助榮郎一吉郎吉二郎淳稔郎助貢忠郎治郎

九乙古餘丸伊藤西柳丸岩中神下藤下乙
 之河慶內豫新內田河部部
 内泉(松原町)町町町方町山堀町原納田方田部
 町部町町町町町町町町町町町町町町町

縣會議員

山渡松青濱酒增小田旭丸岡谷小大
 口邊尾木田井田野川山長榮三
 利忠正右鹿萬淳萬次清好三
 喜七勝七藏馬藏郎松實亮郎藏郎治三

千相中伊岩相阿東丸南玉西八藤中乙八
 歲生河豫田生漕之內河置新河部
 町町原町裏町町(東裏)町路町町町方原部
 町町町町町町町町町町町町町町町

瀨增桑玉鈴松柳加小佐山別若松白如岡
 古田名井木下川藤川藤所林下井
 尊勝三實多清庄松成田欽源憲六石史
 勝藏平藏吉郎八助雄郎寬二郎郎治郎

貴族院議員

多額納稅議員

衆議院議員

第一區選出

片岡恒一
馬岡次郎
川崎正克
松田正一

第二區選出

尾崎行雄
濱地文平
長井源一

小林嘉平治

所得稅調查委員

津市西之口出屋敷

乙部
八町
千歲町

津市九之内泉町

地頭領町
愛宕町

田中林助
金子憲三
稻垣勘四郎
瀨古尊勝

永合壽
梅本宗二郎
增田勝藏

商事調停委員

津市西之口出屋敷

極樂町
餘慶町

津市宿屋町

岩田町

中川藤右衛門
山本太兵衛

金錢債務臨時調停委員

津市丸之内本町

玉置町
西檢校町
玉置町
下部田
西之口出屋敷
餘慶町
藏町
地頭領町

下部田

大門町
東檢校町
宿屋町
岩田町
藤枝町
古河
西堀端

山本恒一郎
松田甚十郎
須山榮
中川藤右衛門
山本太兵衛
杉本嘉藏
落合光藏
中西集平
多田久二

人事調停委員

| | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 津市丸之内殿町 | 貝增萬壽吉 | 津市下部田 | 加藤誠一 |
| 丸之内殿町 | 速水田美市 | 地頭領町 | 梅本宗二 |
| 玉置町 | 濱田美市 | 古河 | 德崎香 |
| 西檢校町 | 奧林和夫 | 古河 | 落合光造 |
| 玉置町 | 米本清 | 古河 | 佐藤友次郎 |
| 西之口出屋敷 | 田中林助 | 古河 | 大西齋助 |
| 極樂町 | 後藤仁兵衛 | 刑部 | 小林德太郎 |
| 塔世西裏 | 久保要藏 | 八町 | 澤田五郎 |
| 塔世西裏 | 今井良次郎 | 八町 | 松浦勇郎 |
| 丸之内本町 | 井谷孝夫 | 阿漕町 | 永野親彦 |
| 西堀端 | 多田九二八 | 西堀端 | 高畑淺次郎 |
| 綿内岩田 | 横井孚一 | 丸之内線町 | 福田謹四郎 |
| 東檢校町 | 須山榮 | 南濱町 | 鹽口瓊枝 |

小作調停委員

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 津市餘慶町 | 伊藤安之助 | 津市下部田 | 佐藤鐵次郎 |
| 下部田 | 山本恒一郎 | 古河 | 中西集平 |

醫療用藥品 化学工業藥品
 醫科理化學器械 度量衡計量器
 公私立病院各醫院御用

長谷部藥局

三重縣津市地頭領町
 電話二・一一九番
 振替東京五三二三番

吳服百貨專門店

白

白銀屋吳服店

津市大門町
 電話一・三、一四、四九二番

高級印刷と帳簿製造

山村活版所

津市金屋町

電話五一二番
振替口座名古屋四五〇三番

パイロットサービスステーション

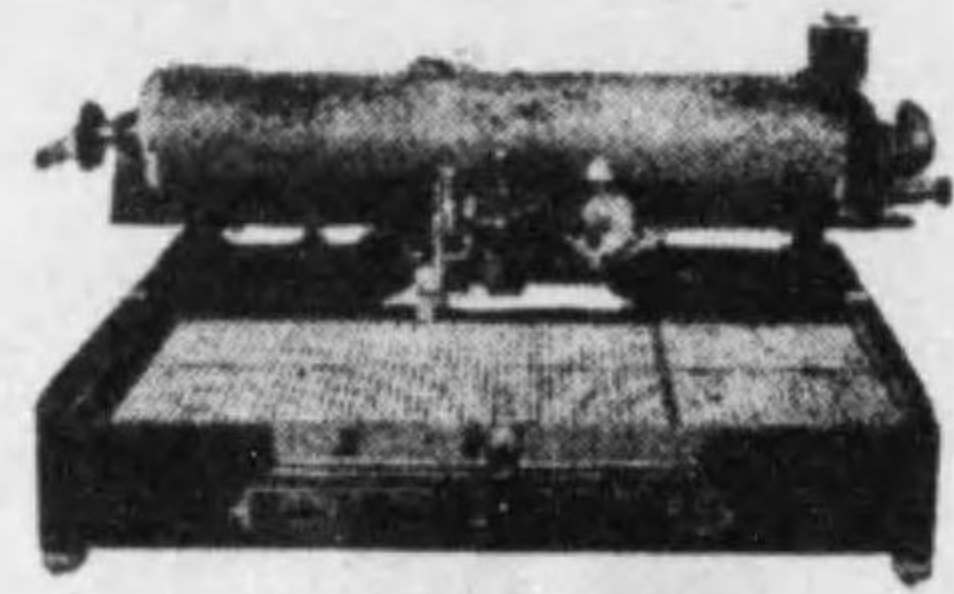
日本タイプライター
マルゼン計算器
玉屋製測量機器
東京後藤製金庫
最新事務用器

特約店



ネリキ文具店

練木定吉



レスター連続傳票自動複寫器
金銭登録器

津市立町
電話一、五二九番
振替名古屋一、五二二番

貯金は不動

資本金 八百萬圓

預金總額 八億貳千七百萬圓

所有國債總額 六億零七百萬圓

昭和十五年四月末現在

本店 東京市芝大門

頭取 牧野元次郎



株式會社

不動貯金銀行

支店 全國八十二ヶ所

三重縣下支店

津・桑名・四日市
松阪・山田

神戸海上火災保險株式會社名古屋支店

内外煙草專門店

津駐在所
津代理店

川北初太郎

駐在社員 大西進

津市立町
電話 八三六番

王子製紙株式會社販賣店
三菱製紙株式會社特約店

大 三藤紙店

津市分部所三八
電話一六九番

荒物雜貨
釣 漁 具
硝子器具

津市伊豫町

今山川本店

電話 五六八番
一六〇二番
支店 山田市吹上町
電話二五〇番

ライジングサン石油株式會社
ベルベツト石鹼株式會社

特約店

介川北佐平治商店

津市岩田町

油佐電話 一五五四番
營業用 二五五番

津市

銅鐵金物
セメント丸官材料
倉清金物店

電話 一四九番
一七四番

創立明治二十五年
本邦新界の元祖

株式會社

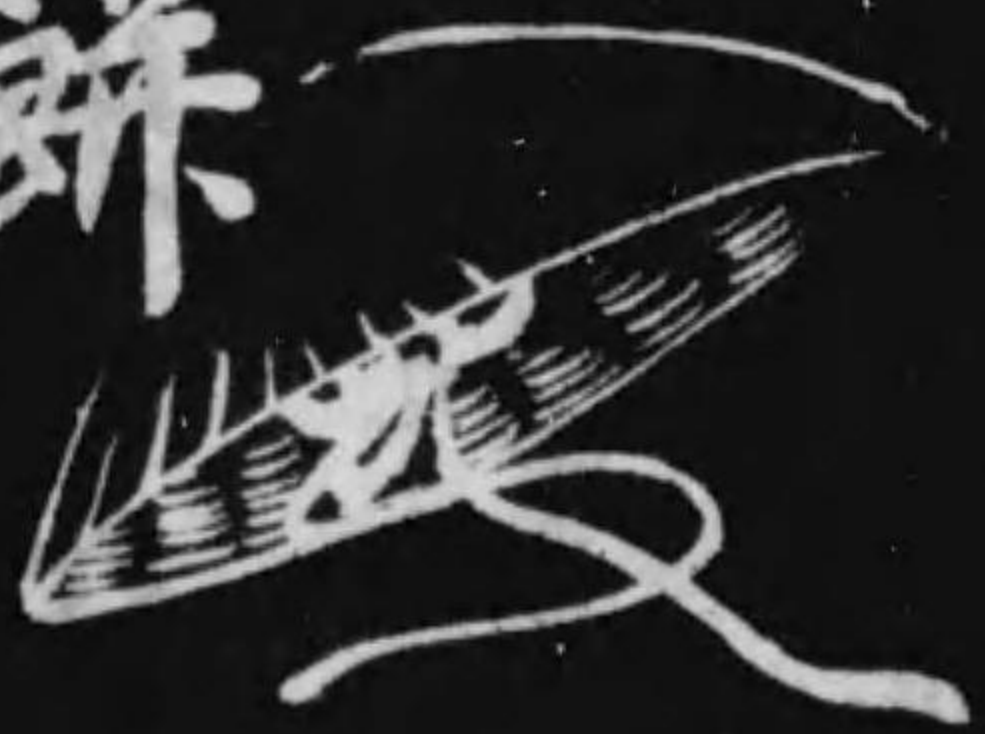
商業興信所

商業信用
結婚人事
調査

本國全土・殖民地・世界各國ニ調査連絡アリ

三重出張所
津市北町
電話一、二、三、五番
本所 大阪北濱

名物
平治煎餅



本店 津市立町

電話七、六番
振替名古屋八九七〇番